

「SDGs 推進 TGC しずおか 2024 by
TOKYO GIRLS COLLECTION」
における経済波及効果分析

報 告 書

令和6年3月

静岡県地域経済分析研究学会

目次

1. SDGs 推進 TGC しずおか 2024 by TOKYO GIRLS COLLECTION の開催概要	1
2. 来場者アンケート結果	2
(1) アンケート実施要領	2
(2) 回答者の属性、行動	3
① 性別・年齢	3
② 同行人数・同行者	4
③ 居住地	5
④ 来場に利用した主な交通手段（複数回答可）	6
(3) SDGs 推進 TGC しずおか 2024 について	7
①-1 イベントの来場のきっかけとなった情報源（男女別）	7
①-2 イベントの来場のきっかけとなった情報源（年齢別）	8
①-3 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）	9
② このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて	11
③ このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか	12
④ 静岡市外の方にお尋ねします。このイベント以降、静岡市を訪れたいと思いますか。（複数回答可）	13
⑤ 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか	14
⑥ 前回の「TGC しずおか 2023」に参加（または視聴）しましたか	15
⑦ 「会場に来場し、参加した」又は「オンラインで視聴した」と回答した方にお聞きします。TGC しずおかへの参加（または視聴）によって SDGs 推進を意識し、行動に移すことができましたか	16
(4) SDGs 推進 TGC しずおか 2024 に関連して支出した金額などについて	
① 自宅から会場までの所要時間	17
② 会場への片道の交通費	18
③ 来場に伴う宿泊数と宿泊費	19
④ 来場にあたって使った金額	20
3. 地域経済波及効果の分析結果	22
(1) 経済波及効果の分析方法	22
(2) 経済波及効果の起点となる最終需要	23
① 最終需要 1-来場者の支出（宿泊・飲食・買い物・交通費）	24
② 最終需要 2-主催者の運営支出	28
③ 最終需要のまとめ	28
(3) 経済波及効果の分析結果	29
① 企業・産業への経済波及効果（生産誘発効果）	29
② 家計への雇用効果	31
③ 行政への税収効果	32
④ 地域社会への定住人口効果	34
（参考）来場者にとっての TGC しずおか 2024 の「価値」の金銭評価	37

凡例

本報告書の図表について、加減乗除をして表出している数字は、内訳数字及び計算に使われている数字の小数部分を四捨五入して端数処理している関係で、合計や計算結果が表中の数字と一致しない場合がある。

1. SDGs 推進 TGC しずおか 2024 by TOKYO GIRLS COLLECTION の開催概要

今回、全国にSDGsを発信し最先端の取り組みとなるべく、史上最大級のファッションフェスタ「東京ガールズコレクション」の「地方創生プロジェクト」と「SDGsの推進」を掛け合わせた「SDGs 推進TGC しずおか 2024 by TOKYO GIRLS COLLECTION」（以下、TGCしずおか2024）を開催した。

表1 TGCしずおか2024の開催概要

主催	東京ガールズコレクション実行委員会
共催	静岡県、静岡市
日時	2024年1月13日（土） 開場12:30/開演14:00/終演19:24
会場	ツインメッセ静岡北館大展示場（静岡県静岡市駿河区曲金3丁目1番10号）
入場方法	チケット購入 全席指定席 先行価格：8,500円、一般価格：9,000円 ※金額はすべて税込
来場者数	延べ約7,980人

2. 来場者アンケート結果

(1) アンケート実施要領

TGCしずおか2024の開催時に実施した来場者アンケートの実施概要は以下のとおりである。

表2 来場者アンケートの実施概要

調査体制	調査主体：静岡市、東京ガールズコレクション実行委員会 調査協力：静岡県地域経済分析研究学会
実施日時	2024年1月13日（土）11:00～15:00
実施場所	ツインメッセ静岡北館大展示場
調査対象	本イベントの一般来場者
調査方法	調査員が回答依頼を口頭で行い、承諾を得た場合はQRを交付。Webにより回答後、調査員が確認を行った。
回収状況	回収数565

(2) 回答者の属性、行動

① 性別・年齢 ※ () 内は前回1年前の2023年の結果である

回答者の性別をみると、女性が90.6% (90.2%) と大半を占めている。前回に比べて男性が8.1% (9.3%) とやや減少している (図1)。

年齢では、20代が45.3% (42.8%) で最も多く、次いで10代が33.1% (33.4%) で、20代以下で78.4% (76.2%) と8割近くを占めている (図2)。

前々回が10代と20代をあわせて95.7%であったことに比べると、今回は30代以上が21.6% (23.5%) と、参加年齢層が30代、40代などにも広がった昨年度とほぼ同じ傾向がみられる。

30代以上の年齢層では、30代が9.0% (6.7%) と増えた一方で、40代7.6% (9.8%)、50代4.1% (5.3%)、60代以上0.9% (1.7%) がやや減少している (表3)。

図1 回答者の性別 (n=565)

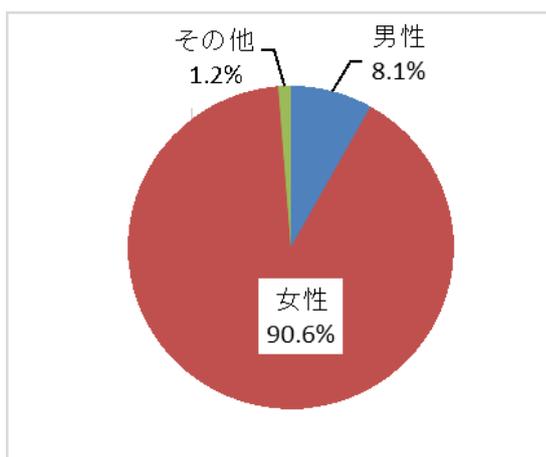


図2 回答者の年齢 (n=565)

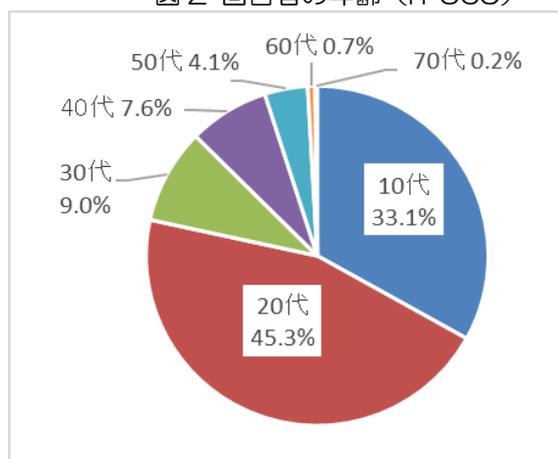


表3 性別・年齢別回答数 (n=565)

性別 年齢別	回答数(人)				年齢構成比 (%) (参考)				
	男性	女性	その他 (注1)	合計	男性	女性	その他 (注1)	合計 2024	合計 2023
10代	11	173	3	187	23.9%	33.8%	42.9%	33.1%	33.4%
20代	17	236	3	256	37.0%	46.1%	42.9%	45.3%	42.8%
30代	8	42	1	51	17.4%	8.2%	14.3%	9.0%	6.7%
40代	4	39	0	43	8.7%	7.6%	0.0%	7.6%	9.8%
50代	5	18	0	23	10.9%	3.5%	0.0%	4.1%	5.3%
60代	1	3	0	4	2.2%	0.6%	0.0%	0.7%	1.0%
70代以上	0	1	0	1	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.7%
合計	46	512	7	565	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男女構成比 (%)	8.1%	90.6%	1.2%	100.0%					(注2)

(注1) 性別の「その他」は選択肢「答えたくない」と回答した人の集計である。

(注2) (参考)の2023年の構成比の合計は、無回答 0.3 %を含む。

② 同行人数・同行者

一緒に来た人数を尋ねたところ、「2人」との回答が 64.4% (64.2%) と6割以上を占めている。次いで「3人」が 11.2%(10.3%)、前回2位だった「1人」が 10.4%(17.6%)、「4人」が 9.0% (2.8%)、「5人以上」が 5.0% (5.0%) となっている (図3)。1人が減り、3人から4人連れの来場者が増えている。

同行者については、「友人」が 57.2% (49.6%) と最も多く前回と比べて増加している。次いで「家族」が 28.1% (26.6%) と続き、「1人」9.7% (13.0%) は前回から減少した。この減少分を上記の「友人」の増加がそれを埋める形となっている。ほか、「仕事仲間」が 3.5% (3.3%)、「カップル」が 1.4% (1.0%) となっている (図4)。

図3 同行人数 (n=565)

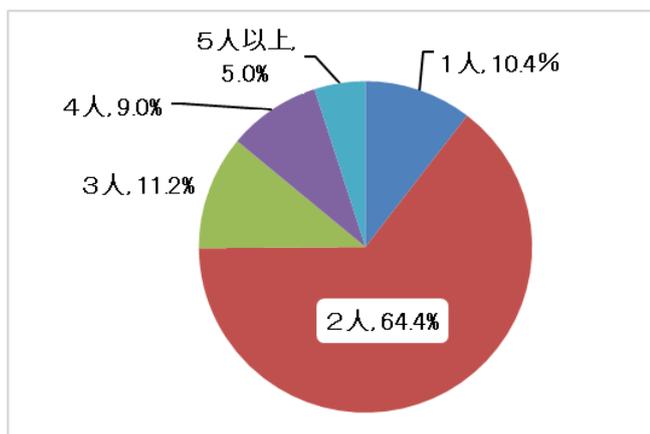


図4 同行者 (n=565)

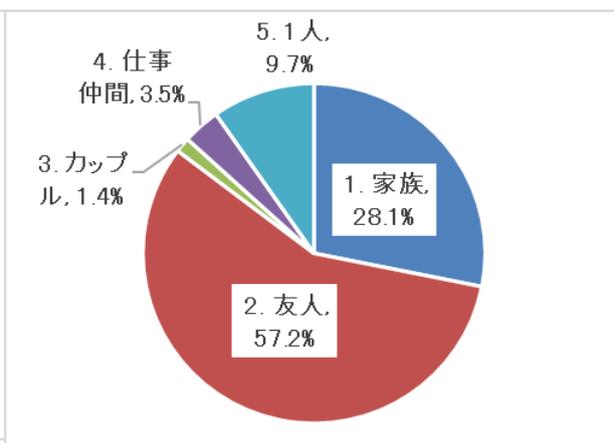


表4 同行人数・同行者 (n=565)

回答者数(人)	1人	2人	3人	4人	5人以上	合計
1. 家族	1	120	25	10	3	159
2. 友人	2	228	33	39	21	323
3. カップル	0	8	0	0	0	8
4. 仕事仲間	1	8	5	2	4	20
5. 1人	55	0	0	0	0	55
合計	59	364	63	51	28	565

構成比 (%)	1人	2人	3人	4人	5人以上	横合計	縦合計
1. 家族	0.6%	75.5%	15.7%	6.3%	1.9%	100.0%	28.1%
2. 友人	0.6%	70.6%	10.2%	12.1%	6.5%	100.0%	57.2%
3. カップル	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1.4%
4. 仕事仲間	5.0%	40.0%	25.0%	10.0%	20.0%	100.0%	3.5%
5. 1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	9.7%
合計	10.4%	64.4%	11.2%	9.0%	5.0%	100.0%	100.0%

③ 居住地

静岡市内が21.0%（29.1%）、静岡市以外の静岡県内が35.6%（35.5%）、静岡県外からは43.4%（35.4%）であった。前回に続き、静岡市内の居住者の割合が減少しているのに対して、静岡県外からの来場者が43.4%（35.4%）と増え、参加者の「居住地の広域化」が続いている（図5）。

図5 参加者の居住地（n=565）

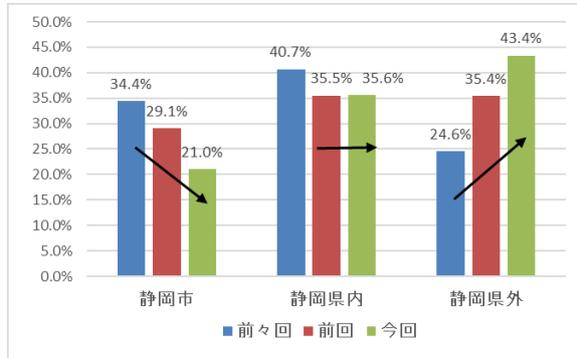


表5 参加者の居住地（n=565）

居住地	回答者数(人)	構成比と推移			
		2024	2024	2023	2020
静岡市	119	21.0%	29.1%	34.4%	
葵区	44	7.8%	10.8%	12.0%	
駿河区	38	6.7%	9.0%	11.3%	
清水区	37	6.5%	8.7%	10.2%	
区不詳			0.7%	0.8%	
静岡県内※	201	35.6%	35.4%	40.7%	
伊豆市	1	0.2%			
西伊豆町	1	0.2%			
三島市	1	0.2%	1.5%	0.8%	
沼津市	6	1.1%	1.2%	1.5%	
御殿場市	1	0.2%	0.2%	0.3%	
裾野市	2	0.4%	0.2%	0.5%	
小山町	1	0.2%			
富士宮市	2	0.4%	1.7%	2.3%	
富士市	14	2.5%	3.2%	4.7%	
焼津市	14	2.5%	3.2%	5.5%	
藤枝市	15	2.7%	2.2%	4.7%	
島田市	8	1.4%	2.8%	2.7%	
牧之原市	5	0.9%	1.0%	0.8%	
吉田町	1	0.2%	0.8%	0.8%	
菊川市	5	0.9%	0.7%	0.2%	
掛川市	5	0.9%	2.0%	1.5%	
袋井市	4	0.7%	0.7%	0.8%	
磐田市	4	0.7%	0.8%	1.3%	
浜松市	28	5.0%	8.3%	6.8%	
市町名不詳	83	14.7%			
伊豆の国市			1.0%	0.2%	
河津町				0.2%	
南伊豆町			0.3%	0.2%	
熱海市			0.3%	0.3%	
伊東市			0.3%	0.2%	
函南町			0.5%	0.2%	
清水町			0.3%	1.0%	
長泉町			0.3%	0.3%	
御前崎市				0.2%	
川根本町			0.3%	1.7%	
森町			0.2%	0.8%	
湖西市			0.8%	0.3%	
市町不詳			0.7%	0.3%	
静岡県外	245	43.4%	35.4%	24.6%	
岩手県	1	0.2%			
宮城県	1	0.2%	0.2%	0.2%	
福島県	1	0.2%	0.2%	0.2%	
茨城県	5	0.9%	0.5%	0.3%	
栃木県	4	0.7%	0.3%	0.2%	
群馬県	1	0.2%		0.7%	
埼玉県	14	2.5%	2.0%	0.5%	
千葉県	10	1.8%	2.2%	0.7%	
東京都	32	5.7%	7.2%	4.8%	
神奈川県	17	3.0%	5.0%	3.8%	
新潟県	1	0.2%	0.2%		
山梨県	5	0.9%	1.0%	0.2%	
長野県	6	1.1%	0.2%	0.3%	
石川県	3	0.5%	0.2%		
富山県	2	0.4%			
岐阜県	9	1.6%	0.3%	2.3%	
愛知県	29	5.1%	5.7%	6.1%	
三重県	5	0.9%	1.8%	1.0%	
滋賀県	1	0.2%	1.5%		
大阪府	6	1.1%	3.0%	0.8%	
和歌山県	1	0.2%	0.3%		
兵庫県	5	0.9%	1.0%	0.8%	
広島県	3	0.5%	0.2%	0.2%	
愛媛県	2	0.4%			
不明	81	14.3%	1.0%	0.3%	
北海道					
福井県			0.2%		
京都府			0.7%	0.5%	
岡山県				0.7%	
香川県				0.2%	
徳島県				0.2%	
長崎県			0.7		
大分県			0.2		
居住地不明			0.2%	0.3%	
合計	565	100.0%	100.0%	100.0%	

※ 静岡市以外の静岡県内
（注）四捨五入の関係で内訳の合計が計と一致しない

④ 来場に利用した主な交通手段（複数回答可）

来場に利用した主な交通手段では、自家用車が最も多く 43.7%（42.8%）であった。自家用車は、静岡市居住者が 53.8%（60.0%）、静岡市以外の静岡県内居住者が 55.2%（51.6%）と半数を超える来場者が利用している。

次いで多かった交通手段の新幹線は 24.4%（25.5%）であり、静岡県外居住者の 52.7%（62.4%）が利用している。前回に比べて 9.7%減少しているが、反面で、自家用車利用者の比率が前回の 19.7%から今回 29.4%へと増加している。静岡県外居住者の新幹線から自家用車への乗り替えが進んでいる。JRや静岡鉄道などの鉄道利用者の比率は 24.1%（21.5%）と増加した。バス利用者の比率は 14.2%（15.5%）とやや減少した。

図 6 主な交通手段（複数回答：回答者総数 565 人に対する回答数の比率）（n=565）

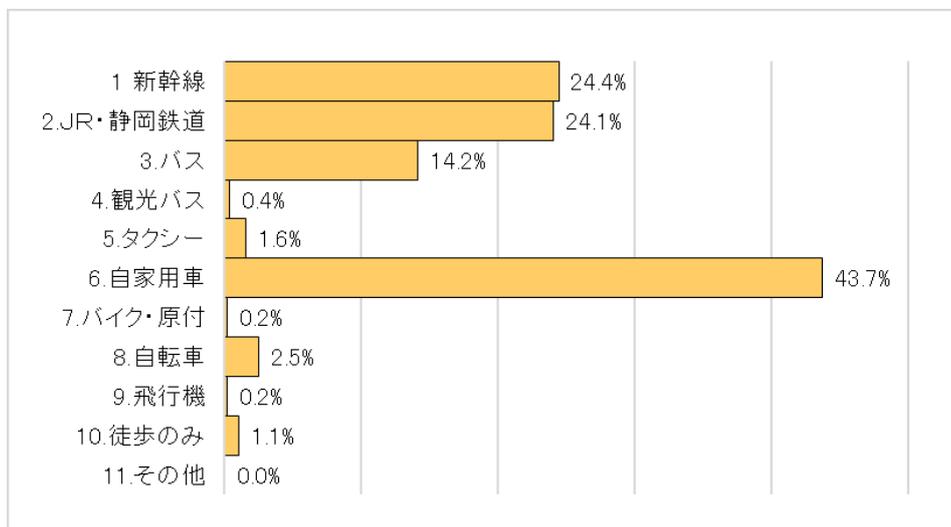


表 6 主な交通手段（複数回答：回答者総数 565 人に対する回答数の比率）（n=565）

居住地 交通手段	回答数				対回答者数比				(参考)	
	静岡市	静岡市以 外の静岡 県内	静岡県外	回答数 合計	静岡市	静岡市以 外の静岡 県内	静岡県外	合計 2024	合計 2023	
1.新幹線	2	7	129	138	1.7%	3.5%	52.7%	24.4%	25.5%	
2.JR・静岡鉄道	23	76	37	136	19.3%	37.8%	15.1%	24.1%	21.5%	
3.バス	14	24	42	80	11.8%	11.9%	17.1%	14.2%	15.5%	
4.観光バス	0	1	1	2	0.0%	0.5%	0.4%	0.4%	0.7%	
5.タクシー	0	3	6	9	0.0%	1.5%	2.4%	1.6%	4.8%	
6.自家用車	64	111	72	247	53.8%	55.2%	29.4%	43.7%	42.8%	
7.バイク・原付	1	0	0	1	0.8%	0.0%	0.0%	0.2%	-	
8.自転車	10	4	0	14	8.4%	2.0%	0.0%	2.5%	1.8%	
9.飛行機	0	0	1	1	0.0%	0.0%	0.4%	0.2%	0.5%	
10.徒歩のみ	6	0	0	6	5.0%	0.0%	0.0%	1.1%	2.2%	
11.その他	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	
回答数	120	226	288	634	100.8%	112.4%	117.6%	112.2%	116.3%	
回答者数	119	201	245	565	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

(3) SDGs 推進 TGC しずおか 2024 について

① -1 イベントの来場のきっかけとなった情報源（男女別）

情報源では、イベント等による告知活動の比重が大きく高まっている点が大きな特徴である（前回 2.3%→今回 12.6%）。反面で、X（旧 Twitter）26.1%→19.3%、Instagram 22.8%→21.8%、LINE 14.0%→12.7%と SNS による情報源が比重を減らしている。家族や知人、職場の情報のいわゆる「口コミ」も比重を減らしている（33.3%→24.1%）。

図 7 イベントの来場のきっかけとなった情報源（性別）（n=565）

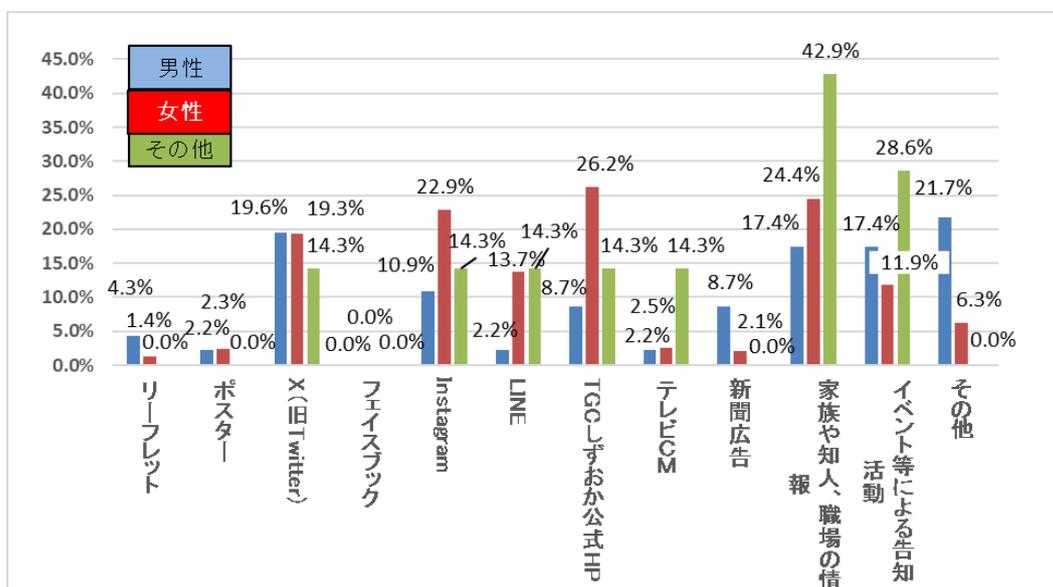


表 7 来場のきっかけとなった情報源（性別）（n=565）

情報源	性別		回答数				対回答者数比			(参考)	
	男性	女性	男性	女性	その他	合計	男性	女性	その他	合計 2024	合計 2023
リーフレット	2	7	2	7	0	9	4.3%	1.4%	0.0%	1.6%	6.3%
ポスター	1	12	1	12	0	13	2.2%	2.3%	0.0%	2.3%	7.7%
X(旧Twitter)	9	99	9	99	1	109	19.6%	19.3%	14.3%	19.3%	26.1%
フェイスブック	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
Instagram	5	117	5	117	1	123	10.9%	22.9%	14.3%	21.8%	22.8%
LINE	1	70	1	70	1	72	2.2%	13.7%	14.3%	12.7%	14.0%
TGCしずおか公式HP	4	134	4	134	1	139	8.7%	26.2%	14.3%	24.6%	25.1%
テレビCM	1	13	1	13	1	15	2.2%	2.5%	14.3%	2.7%	6.8%
新聞広告	4	11	4	11	0	15	8.7%	2.1%	0.0%	2.7%	2.8%
家族や知人、職場の情報	8	125	8	125	3	136	17.4%	24.4%	42.9%	24.1%	33.3%
イベント等による告知活動	8	61	8	61	2	71	17.4%	11.9%	28.6%	12.6%	2.3%
その他	10	32	10	32	0	42	21.7%	6.3%	0.0%	7.4%	9.2%
性別合計	53	681	53	681	10	744	115.2%	133.0%	142.9%	131.7%	156.6%
回答者数	46	512	46	512	7	565	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 性別の「その他」は選択肢「答えたくない」と回答した人の集計である。

① -2 イベントの来場のきっかけとなった情報源（年齢別）

情報源を年齢別にみると、InstagramとLINEは若い年齢ほど情報源の役割が大きい。X（旧Twitter）は、昨年度と比べてどの年齢層でも比率が低下しているが、特に20代の低下が大きい（前回年35.8%→今回20.3%）。

イベント等による告知活動は、10代、20代で顕著な伸びを示している。

図8 来場のきっかけとなった情報源（年齢別）（n=565）

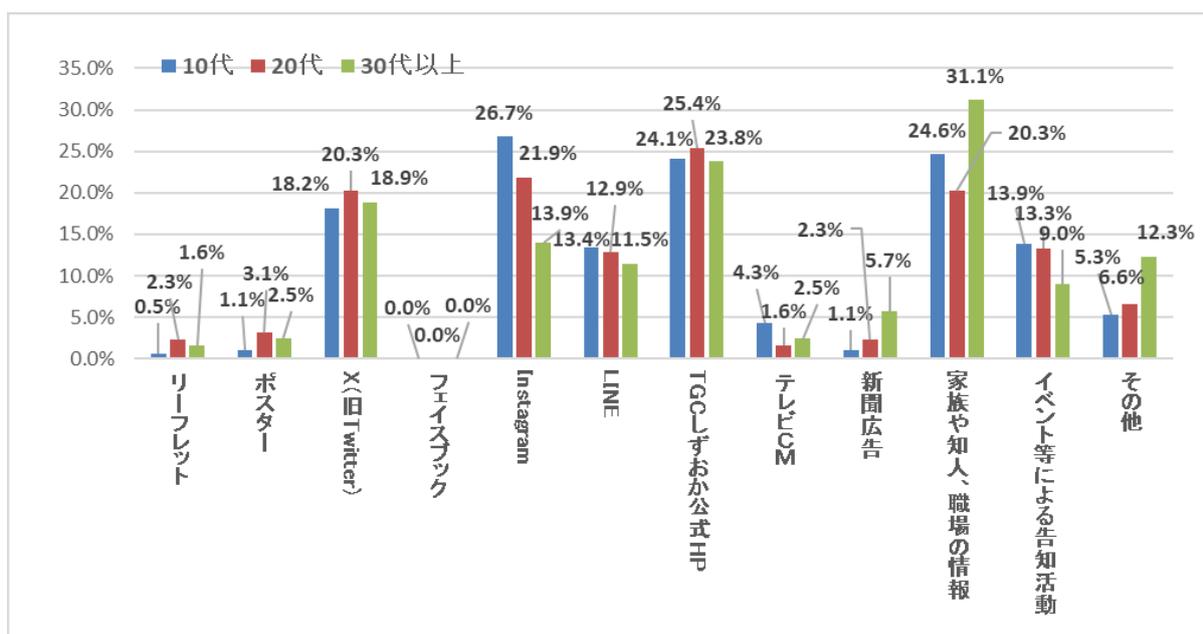


表8 来場のきっかけとなった情報源（年齢別）（n=565）

情報源	回答数				対回答者数比							
	10代	20代	30代以上	合計	10代2024	20代2024	30代以上2024	10代2023	20代2023	30代以上2023	合計2024	合計2023
リーフレット	1	6	2	9	0.5%	2.3%	1.6%	4.0%	3.5%	5.0%	1.6%	4.0%
ポスター	2	8	3	13	1.1%	3.1%	2.5%	5.0%	0.8%	2.1%	2.3%	2.5%
X(旧Twitter)	34	52	23	109	18.2%	20.3%	18.9%	22.4%	35.8%	24.8%	19.3%	28.6%
フェイスブック					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Instagram	50	56	17	123	26.7%	21.9%	13.9%	38.8%	26.8%	16.3%	21.8%	28.3%
LINE	25	33	14	72	13.4%	12.9%	11.5%	10.0%	10.1%	7.1%	12.7%	9.3%
TGCLずおか公式HP	45	65	29	139	24.1%	25.4%	23.8%	18.4%	20.2%	14.2%	24.6%	18.1%
テレビCM	8	4	3	15	4.3%	1.6%	2.5%	2.5%	1.9%	7.1%	2.7%	3.3%
新聞広告	2	6	7	15	1.1%	2.3%	5.7%	3.5%	1.2%	6.4%	2.7%	3.2%
家族や知人、職場の情報	46	52	38	136	24.6%	20.3%	31.1%	21.4%	12.5%	34.8%	24.1%	20.6%
イベント等による告知活動	26	34	11	71	13.9%	13.3%	9.0%	5.0%	1.6%	5.0%	12.6%	3.5%
その他	10	17	15	42	5.3%	6.6%	12.3%	6.5%	5.8%	9.2%	7.4%	6.8%
年齢別合計	249	333	162	744	133.2%	130.1%	132.8%	137.3%	120.2%	131.9%	131.7%	128.3%
回答者数	187	256	122	565	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

① -3 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）

居住地別にみると、SNS では、県外居住者は X（旧 Twitter）が静岡市を含む静岡県居住者の2倍前後多いのに対し、逆に Instagram は静岡市を除く静岡県居住者の割合が高い。

TGC しずおか公式 HP は、どの地域も昨年度に比べて比重を大きくしているが、特に静岡市を除く静岡県内居住者の比重の高まりが顕著である。家族や知人、職場の情報も比重を高めているが、静岡市居住者 31.1%、静岡県内居住者 27.9%、静岡県外居住者 17.6%と、開催会場に近いほど「口コミ」効果が大きいことが分かる。比重を高めているイベント等による告知活動は、逆の傾向がみられ、静岡県外の比率が最も高くなっている。

図9 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）（n=565）

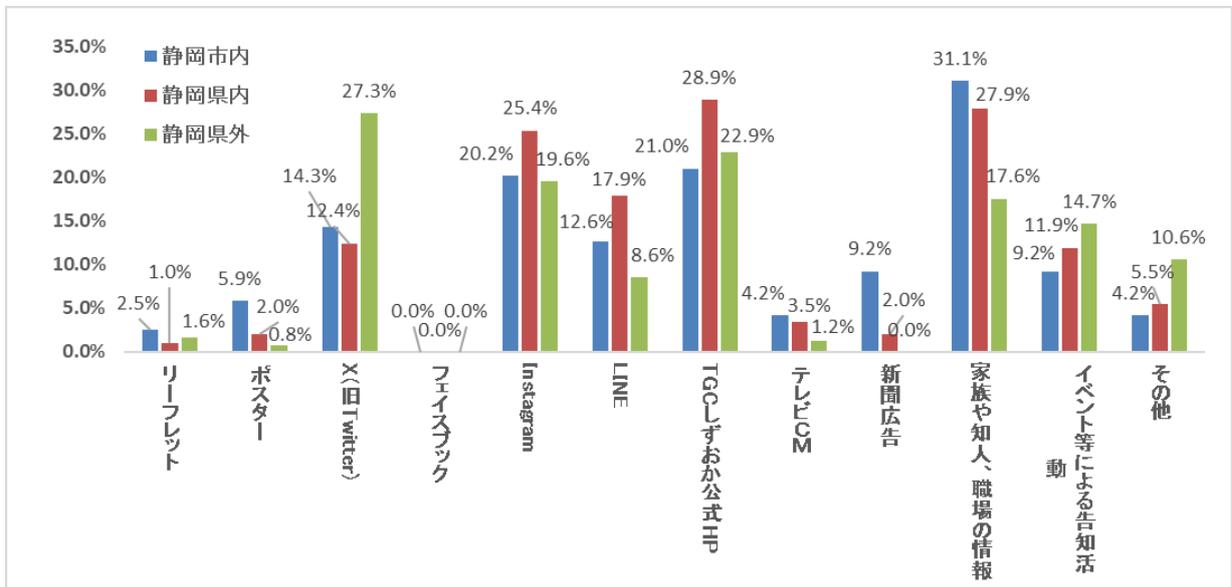


表9 イベントの来場のきっかけとなった情報源（居住地別）（n=565）

情報源	回答数				対回答者数比								
	静岡市内	静岡県内	静岡県外	合計	静岡市内 2024	静岡県内 2024	静岡県外 2024	静岡市内 2023	静岡県内 2023	静岡県外 2023	合計 2024	合計 2023	
リーフレット	3	2	4	9	2.5%	1.0%	1.6%	10.9%	1.9%	0.9%	1.6%	4.2%	
ポスター	7	4	2	13	5.9%	2.0%	0.8%	4.6%	2.3%	0.9%	2.3%	2.5%	
X(旧Twitter)	17	25	67	109	14.3%	12.4%	27.3%	12.6%	23.0%	47.9%	19.3%	28.8%	
フェイスブック	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Instagram	24	51	48	123	20.2%	25.4%	19.6%	22.3%	33.8%	27.7%	21.8%	28.3%	
LINE	15	36	21	72	12.6%	17.9%	8.6%	13.7%	9.9%	5.2%	12.7%	9.3%	
TGCしずおか公式HP	25	58	56	139	21.0%	28.9%	22.9%	16.6%	17.4%	20.2%	24.6%	18.1%	
テレビCM	5	7	3	15	4.2%	3.5%	1.2%	5.7%	4.7%	0.0%	2.7%	3.3%	
新聞広告	11	4	15	15	9.2%	2.0%	0.0%	6.9%	3.3%	0.0%	2.7%	3.2%	
家族や知人、職場の情報	37	56	43	136	31.1%	27.9%	17.6%	28.0%	24.9%	10.8%	24.1%	20.8%	
イベント等による告知活動	11	24	36	71	9.2%	11.9%	14.7%	3.4%	2.8%	4.2%	12.6%	3.5%	
その他	5	11	26	42	4.2%	5.5%	10.6%	8.0%	5.2%	7.5%	7.4%	6.8%	
回答数合計	160	278	306	744	134.5%	138.3%	124.9%	132.6%	129.1%	125.4%	131.7%	128.8%	
回答者数	119	201	245	565	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

「その他」と回答した情報源の詳細

【男性】

- 幼稚園でパンフレットをいただいた
- 先生からの紹介
- 推しの出演
- 招待
- 手紙
- 学校
- ミクチャ
- たまたま

【女性】

- 推しの出演
- BUDDiS 公式
- FANTASTICS FC のお知らせ
- SNS
- UNiFY 公式 X
- コンビニ
- シャンソン
- ノリ
- ボランティア
- もともと知っていた
- ラジオ告知
- 昨年も来たから
- 仕事
- 出店
- 友人の紹介

② このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて

イベント開催の感想について、「とても良い」という最高の評価は10代が78.6%（前回91.0%）、20代が77.3%（81.3%）、30代以上が73.8%（77.6%）であった。

また、「良い」という評価は10代が18.7%（6.5%）、20代が19.1%（17.2%）、30代が22.1%（21.0%）であり、いずれの年代も増加している。

「とても良い」と「良い」を合わせた回答は、性別年代別の合計でみると、96.6%（98.1%）と、ほとんどの参加者が「とても良い」「良い」という評価をしている。

図10 このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて（n=565）

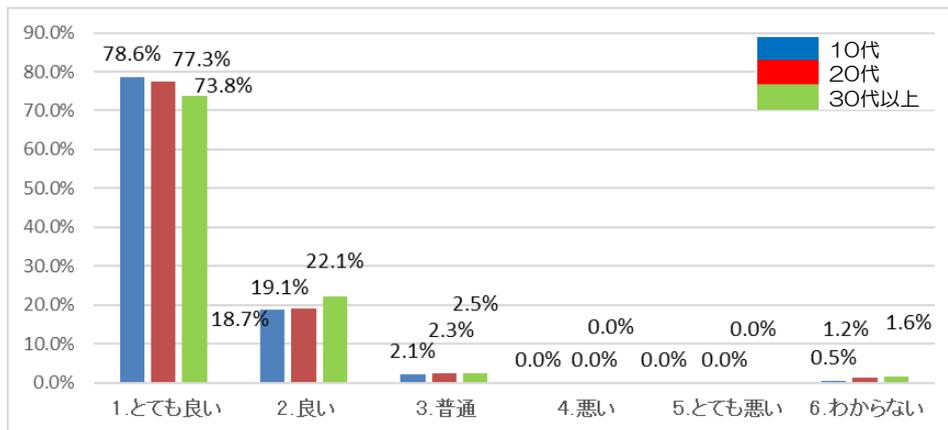


表10 このようなファッション等若者や女性向けイベントを開催することについて（n=565）

年齢 イベントの評価	回答者数															
	男性				女性				その他				性別合計			
	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	合計
1. とても良い	5	11	13	29	139	187	76	402	3		1	4	147	198	90	435
2. 良い	6	6	3	15	29	41	24	94		2		2	35	49	27	111
3. 普通			1	1	4	5	2	11		1		1	4	6	3	13
4. 悪い				0				0				0	0	0	0	0
5. とても悪い				0				0				0	0	0	0	0
6. わからない			1	1	1	3	1	5				0	1	3	2	6
無記入				0				0				0	0	0	0	0
合計	11	17	18	46	173	236	103	512	3	3	1	7	187	256	122	565

年齢 イベントの評価	構成比															
	男性				女性				その他				性別合計			
	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	小計	10代	20代	30代以上	合計
1. とても良い	45.5%	64.7%	72.2%	63.0%	80.3%	79.2%	73.8%	78.5%	100%	0.0%	100%	57.1%	78.6%	77.3%	73.8%	77.0%
2. 良い	54.5%	35.3%	16.7%	32.6%	16.8%	17.4%	23.3%	18.4%	0.0%	66.7%	0.0%	28.6%	18.7%	19.1%	22.1%	19.6%
3. 普通	0.0%	0.0%	5.6%	2.2%	2.3%	2.1%	1.9%	2.1%	0.0%	33.3%	0.0%	14.3%	2.1%	2.3%	2.5%	2.3%
4. 悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5. とても悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6. わからない	0.0%	0.0%	5.6%	2.2%	0.6%	1.3%	1.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	1.2%	1.6%	1.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③ このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか

イベント参加と併せて静岡市内で観光やレジャーを行うかについては、静岡市居住者が14.3%（前回6.9%）、静岡市以外の静岡県内居住者が18.4%（6.6%）、静岡県外居住者が28.2%（17.8%）と増加している。増加が顕著である。

約8,000人の参加者のうち、静岡市や静岡県内を観光する参加者は、表11の合計欄の21.8%と5.5%を合わせた27.3%であることを考えると、約8,000人×観光する人の比率27.3%=2,184人となり、2000人を超える観光客を静岡県内に誘発していると推定される。うち静岡市内の観光客は約8,000人×21.8%=1,744人と推定される。

図11 このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか（n=565）



表11 このイベント参加に伴い、ついでに観光やレジャーを行いますか（n=565）

観光など	回答数				構成比				合計 2023 その他 略
	静岡市	静岡市 以外の 静岡県	静岡県 外	合計	静岡市	静岡市 以外の 静岡県	静岡県 外	合計 2024	
静岡市内で観光を行う	17	37	69	123	14.3%	18.4%	28.2%	21.8%	10.6%
県内で観光を行う（注1）	4	9	18	31	3.4%	4.5%	7.3%	5.5%	1.3%
特に観光等は行わない	98	155	158	411	82.4%	77.1%	64.5%	72.7%	84.4%
合計	119	201	245	565	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注1）静岡市以外の県内で観光を行う

（注2）2023年の構成比の合計100.0%には無回答3.7%を含む

（表11-付表） 観光を行う場所（居住地別）（記述追加回答のあった例）

居住地 静岡市	回答数	居住地 静岡市以外の 静岡県内	回答数	居住地 静岡県外	回答数	静岡県外続く	
繁華街	1	ドリームプラザ	3	三島市	3	港など	1
静岡駅周辺	1	買い物	1	さわやか	4	神社	1
駅前	1	市内地	1	浜松市	2	富士山	1
				御殿場市	1	静岡	1
				御殿場アウトレット	1	食事	1
				タワレコ磐田	1	名古屋	1
合計	3	合計	5	合計			18

④ 静岡市外の方にお尋ねします。このイベント以降、静岡市を訪れたいと思いますか（複数回答可）

この調査項目では、無回答だった回答者が54.7%（前回6.1%）と過半数を超えた影響で、興味のわくイベントに参加したい回答27.1%（24.9%）の増加を除いて、他の選択肢は前回に比べて軒並み対回答者数比が減少している。特に大きな減少を示しているのが、観光やレジャー目的で訪れたい18.4%（41.5%）であり、グルメ目的で訪れたいも24.4%（31.0%）と減少している。無回答が増えたのは、調査方法が対面調査に変わりはしないものの、紙ベースの回答方式からWeb方式に変わり、調査員による調査票の回収がなくなったことで、まだ訪問を考えていない回答者が義務感で回答しなくなったことが考えられる。

図 12 このイベント以降、静岡市を訪れたいと思いますか（複数回答可）

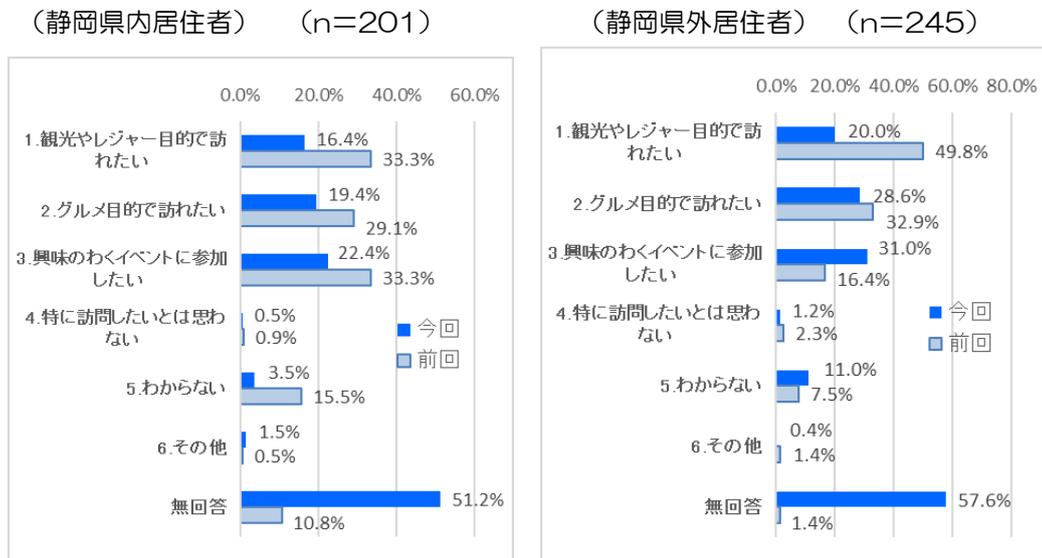


表 12 このイベント以降、静岡市を訪れたいと思いますか（複数回答可）（n=446）

静岡市を訪れたいと思うか	回答数			対回答者数比 (参考)			
	静岡県(静岡市以外)	静岡県以外	合計	静岡県(静岡市以外)	静岡県以外	合計 2024	合計 2023
1.観光やレジャー目的で訪れたい	33	49	82	16.4%	20.0%	18.4%	41.5%
2.グルメ目的で訪れたい	39	70	109	19.4%	28.6%	24.4%	31.0%
3.興味のわくイベントに参加したい	45	76	121	22.4%	31.0%	27.1%	24.9%
4.特に訪問したいとは思わない	1	3	4	0.5%	1.2%	0.9%	1.6%
5.わからない	7	27	34	3.5%	11.0%	7.6%	11.5%
6.その他	3	1	4	1.5%	0.4%	0.9%	0.9%
無回答	103	141	244	51.2%	57.6%	54.7%	6.1%
合計	231	367	598	114.9%	149.8%	134.1%	117.6%
回答者数	201	245	446	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤ 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか

回答者合計では50.6%と半数が「参加する」と回答した。「参加は不明だが開催を希望する」は46.9%、「参加しない」は2.5%であった。年齢別では、30代以上の「参加する」が54.9%とやや多く、年齢が上がるほど参加の意向が強いことがわかる。居住地では、静岡市以外の静岡県内居住者では63.2%と6割を超えて最も高くなっている。

一方で静岡県外居住者は、遠方からの来場のためか「参加する」と意思表示した回答者は37.1%にとどまっている。「参加する」と「参加は不明だが開催を希望する」と回答した人を合わせた比率は、年齢別でも居住地でもいずれも95%を超えており、来年開催への期待が高いことがうかがえる。

図 13 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか (n=565)

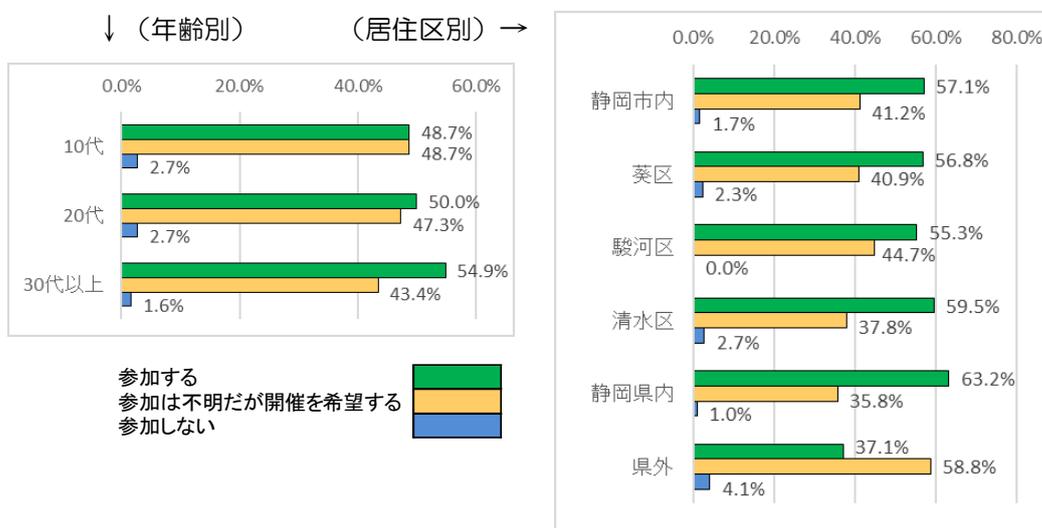


表 13 「TGC しずおか」が来年も開催された場合、参加しますか (n=565)

		回答数				構成比 (年齢別)			
		参加する	参加は不明だが開催を希望する	参加しない	合計	参加する	参加は不明だが開催を希望する	参加しない	合計
(年齢別)									
年齢別	10代	91	91	5	187	48.7%	48.7%	2.7%	100.0%
	20代	128	121	7	256	50.0%	47.3%	2.7%	100.0%
	30代以上	67	53	2	122	54.9%	43.4%	1.6%	100.0%
	合計	286	265	14	565	50.6%	46.9%	2.5%	100.0%
(居住地別)									
居住地別	静岡市内	68	49	2	119	57.1%	41.2%	1.7%	100.0%
	葵区	25	18	1	44	56.8%	40.9%	2.3%	100.0%
	駿河区	21	17		38	55.3%	44.7%	0.0%	100.0%
	清水区	22	14	1	37	59.5%	37.8%	2.7%	100.0%
	静岡県内	127	72	2	201	63.2%	35.8%	1.0%	100.0%
	県外	91	144	10	245	37.1%	58.8%	4.1%	100.0%
	合計	286	265	14	565	50.6%	46.9%	2.5%	100.0%

⑥ 前回の「TGC しずおか 2023」（1月14日(土)開催）に参加（または視聴）しましたか

前回の参加状況については、全体で「会場に来場し、参加した」と回答した人が25.8%、約4人に1人であった。「オンライン(LINE LIVE、YouTube等)で視聴した」人は26.4%、「いいえ」と回答した人は約半数の47.8%であった。

年齢別では、「オンライン(LINE LIVE、YouTube等)で視聴した」人が10代で42.2%と、他の年代に比べて倍以上の高い比率を占めている点に特徴がある。地域別では、前回参加の市内居住者の割合は33.6%で、オンライン等での視聴は県内居住者の比率33.3%が、他の地域の20%強と比べて高かった。

図 14 前回の「TGC しずおか 2023」（1月14日(土)開催）に参加（または視聴）しましたか（n=565）

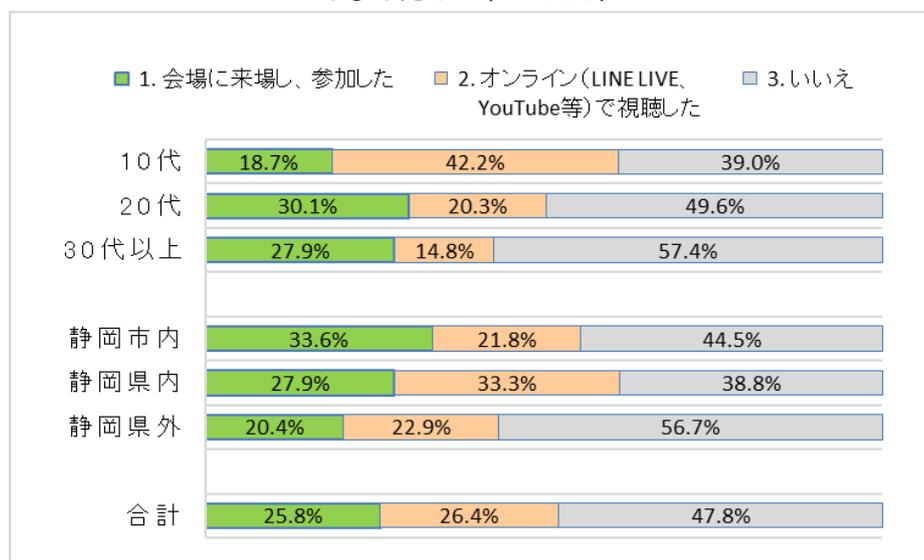


表 14 前回の「TGC しずおか 2023」（1月14日(土)開催）に参加（または視聴）しましたか（n=565）

前回参加		年齢				居住地			
		10代	20代	30代以上	合計	静岡市内	静岡県内	静岡県外	合計
回答	1. 会場に来場し、参加した	35	77	34	146	40	56	50	146
	2. オンライン(LINE LIVE、YouTube等)で視聴した	79	52	18	149	26	67	56	149
	3. いいえ	73	127	70	270	53	78	139	270
	合計	187	256	122	565	119	201	245	565
構成比	1. 会場に来場し、参加した	18.7%	30.1%	27.9%	25.8%	33.6%	27.9%	20.4%	25.8%
	2. オンライン(LINE LIVE、YouTube等)で視聴した	42.2%	20.3%	14.8%	26.4%	21.8%	33.3%	22.9%	26.4%
	3. いいえ	39.0%	49.6%	57.4%	47.8%	44.5%	38.8%	56.7%	47.8%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑦「会場に来場し、参加した」又は「オンラインで視聴した」と回答した方にお聞きします。TGC しずおかへの参加（または視聴）によって SDGs 推進を意識し、行動に移すことができましたか。（例：環境に配慮された服を選ぶようになった等）

TGC しずおか開催の目的の大きな1つがSDGsの推進であることから、前回参加または視聴した人にTGC しずおか 2023 によるSDGsへの意識、行動を尋ねた。「具体的な行動ができ、現在も継続している」と回答した人の比率は、会場に来場し、参加した人が23.3%、オンラインで視聴した人は10.7%であった（この2つの%の差は統計的に有意な差である※）。臨場感あふれる会場内でのSDGsのアピールの効果をうかがうことのできる調査結果である。（※カイ二乗の独立性の統計的検定による）

図 15 TGC しずおかへの参加（または視聴）によって SDGs 推進を意識し、行動に移すことができましたか（n=295）

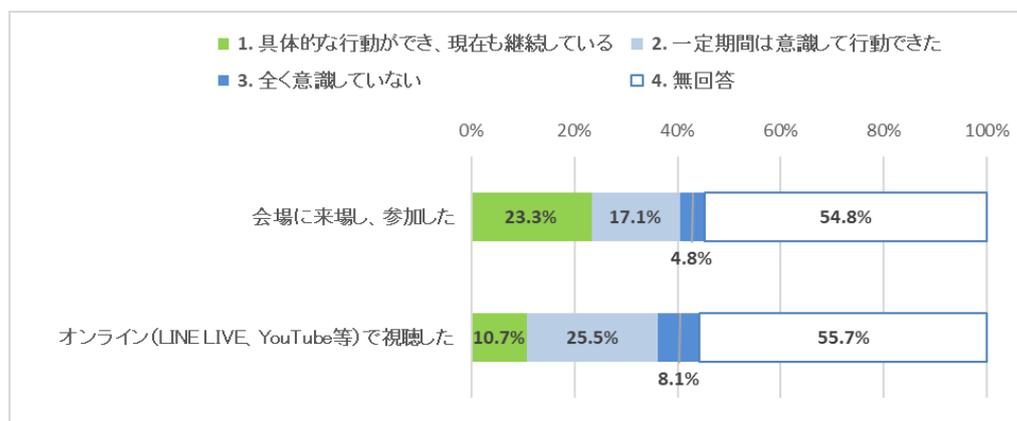


表 15 TGC しずおかへの参加（または視聴）によって SDGs 推進を意識し、行動に移すことができましたか（n=295）

SDGsの行動		回答		
		会場に来場し、参加した	オンライン(LINE LIVE、YouTube等)で視聴した	計
回答	1. 具体的な行動ができ、現在も継続している	34	16	50
	2. 一定期間は意識して行動できた	25	38	63
	3. 全く意識していない	7	12	19
	4. 無回答	80	83	163
	計	146	149	295
構成比	1. 具体的な行動ができ、現在も継続している	23.3%	10.7%	16.9%
	2. 一定期間は意識して行動できた	17.1%	25.5%	21.4%
	3. 全く意識していない	4.8%	8.1%	6.4%
	4. 無回答	54.8%	55.7%	55.3%
	計	100.0%	100.0%	100.0%

(4) SDGs 推進 TGC しずおか 2024 に関連して支出した金額などについて

① 自宅から会場までの所要時間

会場までの片道所要時間について尋ねた結果は、図 16、表 16 の通りである。

静岡市内居住者は 29 分以内が 37.0%、30 分から 59 分が 45.4%で、あわせて 1 時間以内の人が 82.4%と 8 割を超えている。

静岡市を除く静岡県内居住者は、最も多いのは 1 時間～2 時間未満で 67.7%であった。30～59 分が 16.9%、2 時間～3 時間未満が 13.4%であった。

静岡県外居住者では 2～3 時間未満が 33.9%、3～4 時間未満が 34.7%となっている。なかには 5 時間以上かけて来場者人も 8.2%いて、期待の大きさをうかがうことができる。

図 16 来場にあたって、ご自宅から会場までの片道の所要時間をお答えください
(n=560：不詳 5 を除く)

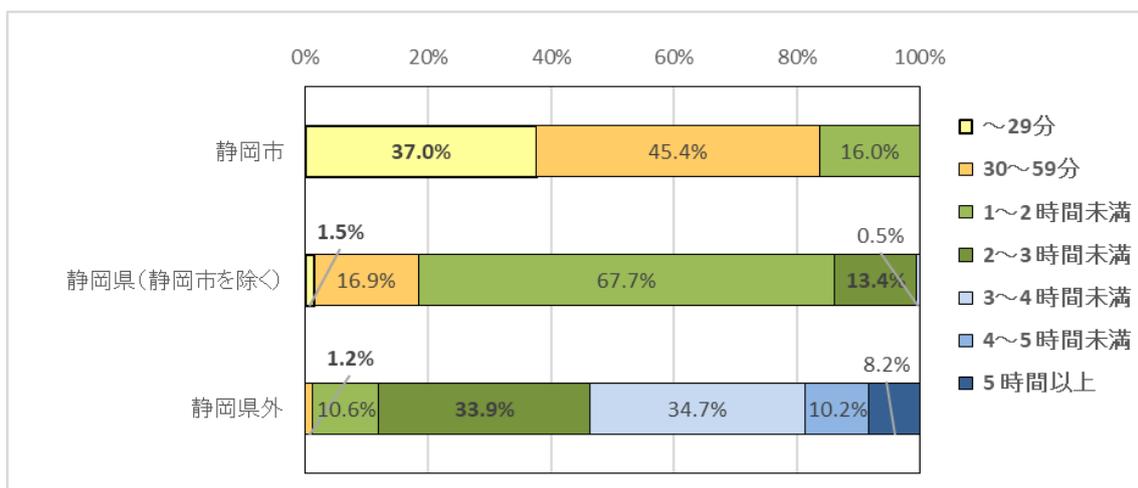


表 16 来場にあたって、ご自宅から会場までの片道の所要時間をお答えください (n=565)

会場まで	回答(人)				構成比(%)			
	静岡市	静岡県(静岡市を除く)	静岡県外	合計	静岡市	静岡県(静岡市を除く)	静岡県外	合計
～29分	44	3		47	37.0%	1.5%	0.0%	8.3%
30～59分	54	34	3	91	45.4%	16.9%	1.2%	16.1%
1～2時間未満	19	136	26	181	16.0%	67.7%	10.6%	32.0%
2～3時間未満		27	83	110	0.0%	13.4%	33.9%	19.5%
3～4時間未満		1	85	86	0.0%	0.5%	34.7%	15.2%
4～5時間未満			25	25	0.0%	0.0%	10.2%	4.4%
5時間以上			20	20	0.0%	0.0%	8.2%	3.5%
不詳	2		3	5	1.7%	0.0%	1.2%	0.9%
合計	119	201	245	565	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 会場への片道の交通費

交通費への支出を交通手段別にまとめたのが表 17 である。交通費は、経済波及効果の分析に用いるが、自家用車の燃料費や高速道路料金など、アンケートでは回答が難しい交通費もあるため、詳しい交通費については、経済波及効果の分析の部分で考察したい。

表 17 では、交通手段別に集計した交通費を掲げているが、注 1 に記載したように、少ない回答者が複数の交通手段を利用して来場しているため、1つの交通費の回答額からそれぞれの交通手段ごとの交通費を知ることはできない。そのため、回答額は主な交通手段の欄に記載する、という方法をとっている。例えば、東京から新幹線と路線バスで会場まで来た場合は、回答額を「新幹線」の欄に記載している。

また、自家用車で参加した人が「0円」と回答した人は、燃料代などがかかっているため、集計から外し、0円以外の有額回答だけを集計している。

集計結果は、新幹線で参加した人の平均交通費は 11,271 円、JR 在来線・静岡鉄道で参加した人は 1,654 円、路線バス・高速バスを利用した人は 3,307 円であった。自家用車を利用した人は 2,753 円であったが、主に高速道路料金など有料道路代だと思われる。飛行機を利用した人は一人であったが、回答額の 30,000 円には、空港からの路線バス代が含まれている。

表 17 会場への片道交通費

(単位:円)

交通手段 記号・算式	交通費(注1) 交通手段回答数 (複数回答)	交通費有効 回答数	交通費回答 総額	1人あたり平均 交通費
	A	B	C	D=C÷B
1. 新幹線	138	133	1,499,095	11,271
2. JR在来線・静岡鉄道	136	125	206,700	1,654
3. 路線バス・高速バス(注2)	80	34	112,440	3,307
4. 観光バス	2
5. タクシー	9	1	5,000	5,000
6. 自家用車	247	158	435,040	2,753
7. バイク・原付	1	1	0	0
8. 自転車	14	-	-	-
9. 飛行機	1	1	30,000	30,000
10. 徒歩のみ	6	-	-	-
11. その他	0	-	-	-
回答数	634	453	2,288,275	5,051
回答者数	565			4,050

(注1) 複数の交通手段の回答者の交通費は、主要な交通手段に記入した。

交通費有効回答数には、自家用車の交通費を0と回答した人を外している。

(注2) 路線バス・高速バスの回答者の交通費は、他の交通手段を用いない回答者だけを集計している。また、1人あたり平均交通費は、路線バスと高速バスを合わせた回答である。

③ 来場に伴う宿泊数と宿泊費

参加者のうち宿泊した人の割合は、前々回の 7.6%。前回の 10.8%に続いて増加し、今回は 13.3%となった。来場者の居住地の広域化の影響によるものと考えられる。静岡県外からの来場者に限れば静岡市内宿泊者は 22.4%（前回 21.6%）であった。推定宿泊者総数は 1,059 人（854 人）にのぼると推定される。

表 18 宿泊の有無、宿泊地、宿泊数（n=565）

（回答数）

居住地	宿泊 日帰り	静岡市 内に宿 泊	（静岡市内 宿泊数）		静岡市以 外の静岡 県内に宿 泊	（静岡県内 宿泊数）		静岡県 以外に 宿泊	宿泊者 数合計	合計
			1泊	不詳		1泊	不詳			
静岡市	116	1		1	2		2		3	119
静岡県（静岡市以外）	195	2	2		2	1	1	2	6	201
静岡県外	179	55	2	53	2	1	1	9	66	245
合計	490	58	4	54	6	2	4	11	75	565

（参加者数・静岡県外居住者数に対する宿泊者の比率）

対参加者全体	86.7%	10.3%		1.1%		1.9%	13.3%	100.0%
前回(TGCLしずおか2023)	88.4%	9.0%		0.3%		1.5%	10.8%	100.0%
対静岡県外居住者	73.1%	22.4%		0.8%		3.7%	26.9%	100.0%
前回(TGCLしずおか2023)	73.2%	21.6%		0.9%		4.2%	26.8%	100.0%

（注）対参加者全体の前回（TGCLしずおか2023）の比率の合計には、無回答0.8%を含む

表 19 宿泊費・推定宿泊者数・宿泊費総額（n=565）

宿泊者数・宿泊費		居住地	記号・算式	静岡市	静岡県（静岡市以外）	静岡県外	合計	
一人あたり 平均宿泊費 （円）	静岡市内に宿泊		A	8000	7000	8958		
	静岡市以外の静岡県内に宿泊			9000	4500			
	静岡県以外に宿泊				6000			
回答者数 （人）	静岡市内に宿泊		B	1	2	55	58	
	静岡市以外の静岡県内に宿泊			2	2	2	6	
	静岡県以外に宿泊					2	9	11
	計			C	3	6	66	75
居住地別回答者総数			D	119	201	245	565	
回答者総数 に対する宿 泊者の比率	静岡市内に宿泊		E=B÷D	0.8%	1.0%	22.4%	10.3%	
	静岡市以外の静岡県内に宿泊			1.7%	1.0%	0.8%	1.1%	
	静岡県以外に宿泊			0.0%	1.0%	3.7%	1.9%	
	計			2.5%	3.0%	26.9%	13.3%	
推定宿泊者 数(人)	静岡市内に宿泊		F=G×E	14	28	777	819	
	静岡市以外の静岡県内に宿泊			28	28	28	85	
	静岡県以外に宿泊			0	28	127	155	
	計			42	85	932	1,059	
居住地別推定参加者数			G	1,681	2,839	3,460	7,980	
（推計） 宿泊費総計 （万円）	静岡市内に宿泊		H=A×F	11	20	696	727	
	静岡市以外の静岡県内に宿泊			25	13	0	38	
	静岡県以外に宿泊			0	17	0	17	
	計			37	49	696	782	

（注）G 居住地別推定参加者数は、居住地別回答者数の構成比を、参加者数 7,980 人に乗じて算出

④ 来場にあたって使った金額

交通費を除く参加者の支出については、表20の通りである。総額は、前回7,470万円より増えて8,070万円にのぼった。詳しい考察については次ページで行う。

表20 来場者の支出額

費目 支出地域	回答者数 支出額	回答者 数 (人)	支出した 人の比 率	回答額計 (円)	回答者 1 人 当り支 出額(円)	全参加者中 の支出者数 (人)	全参加者 推定支出 額 (100万円)	(参考:過去の実績) 全参加者の推定支出額 (100万円)		
								記号・計算式	A	対回答 者565人
宿泊費	総数	75	13.3%	670,300	8,937	1,059	9.5	6.8	4.1	7.0
	静岡市内	58		514,700	8,874	819	7.3	4.6	2.7	4.3
	静岡県内	6		45,600	7,600	85	0.6	0.9	1.3	1.6
	静岡県外	11		110,000	10,000	155	1.6	1.4	0.1	1.1
飲食費	総数	403	71.3%	1,683,310	4,177	5,692	23.8	14.4	11.4	19.8
	静岡市内	384		1,629,810	4,244	5,424	23.0	12.4	8.9	14.9
	静岡県内	17		49,500	2,912	240	0.7	1.1	1.6	4.2
	静岡県外	2		4,000	2,000	28	0.1	0.9	0.9	0.6
洋服・ 帽子	総数	186	32.9%	1,007,450	5,416	2,627	14.2	15.3	30.8	81.1
	静岡市内	103		464,150	4,506	1,455	6.6	8.3	18.6	46.8
	静岡県内	15		93,500	6,233	212	1.3	3.4	6.1	20.1
	静岡県外	68		449,800	6,615	960	6.4	3.6	6.1	14.2
バッグ	総数	76	13.5%	373,000	4,908	1,073	5.3	7.0	14.4	84.0
	静岡市内	27		128,000	4,741	381	1.8	4.3	7.6	36.4
	静岡県内	14		74,000	5,286	198	1.0	1.8	3.8	25.4
	静岡県外	35		171,000	4,886	494	2.4	0.9	3.0	22.2
アクセサリー	総数	85	15.0%	179,716	2,114	1,201	2.5	3.7	8.4	65.9
	静岡市内	55		103,000	1,873	777	1.5	2.3	6.5	28.9
	静岡県内	11		17,708	1,610	155	0.3	0.2	1.4	21.7
	静岡県外	19		59,008	3,106	268	0.8	1.2	0.5	15.3
化粧品	総数	213	37.7%	548,430	2,575	3,008	7.7	4.4	11.5	58.2
	静岡市内	118		235,430	1,995	1,667	3.3	2.4	7.2	25.2
	静岡県内	16		26,400	1,650	226	0.4	1.1	3.0	18.3
	静岡県外	79		286,600	3,628	1,116	4.0	0.9	1.3	14.7
会場内 グッズ	総数	129	22.8%	198,100	1,536	1,822	2.8	2.1	3.5	28.6
	静岡市内	127		196,100	1,544	1,794	2.8	1.8	2.3	23.5
	静岡県内	1		1,000	1,000	14	0.0	0.3	0.6	4.5
	静岡県外	1		1,000	1,000	14	0.0	0.1	0.6	0.6
お土産	総数	192	34.0%	374,820	1,952	2,712	5.3	2.5	3.1	10.5
	静岡市内	188		360,820	1,919	2,655	5.1	2.2	2.5	9.5
	静岡県内	3		12,000	4,000	42	0.2	0.1	0.5	0.6
	静岡県外	1		2,000	2,000	14	0.0	0.2	0.1	0.3
美容費	総数	116	20.5%	681,000	5,871	1,638	9.6	18.3	24.2	80.8
	静岡市内	40		241,000	6,025	565	3.4	6.0	12.7	37.2
	静岡県内	18		103,500	5,750	254	1.5	7.3	6.3	23.4
	静岡県外	58		336,500	5,802	819	4.8	5.1	5.1	20.2
総合計	総数(延べ)	1,475	261.1%	5,716,126	3,875	20,833	80.7	74.7	111.3	436.0
	静岡市内	1,100		3,873,010	3,521	15,536	54.7	44.1	69.0	226.7
	静岡県内	101		423,208	4,190	1,427	6.0	16.2	24.7	119.9
	静岡県外	274		1,419,908	5,182	3,870	20.1	14.4	17.7	89.3

(注1) 総合計の「総数(延べ)」は、1人の人が複数の費目で支出しているため「回答者数」「全参加者中の支出者数」が実人数より多い。

(注2) 美容費は「静岡市内で美容(ネイルやエステ、ヘアカット)などに使った金額」を尋ねているが、本表では他地域での回答も含めた。

表20の来場者の支出額について、支出率、支出額と主な費目である宿泊費、飲食費について考察を加えたい。

(1) 支出率

支出した人の割合の多かった費目を順にあげると、①飲食費71.3%、②化粧品37.7%、③お土産34.0%、④洋服・帽子32.9%、⑤会場内グッズ22.8%、⑥美容費20.5%、⑦アクセサリ15.0%、⑧シューズ・バッグ13.5%、⑨宿泊費13.3%の順となっている。

遠方からの参加や友人などとの参加に伴い、最も多い7割強の人が飲食にお金を使っている。お土産は34.0%と約3人に一人が購入している。

(2) 支出額

支出額が多い費目は、①飲食費2,380万円（総額の29.4%、前回19.3%）、②洋服・帽子1,420万円（17.6%、前回20.5%）、③美容費960万円（11.9%、前回24.5%）、④宿泊費950万円（11.8%、前回9.1%）、⑤化粧品770万円（9.5%、前回5.9%）、⑥お土産530万円（6.6%、前回3.3%）、⑦シューズ・バック530万円（6.6%、前回9.4%）、⑧会場内グッズ280万円（3.5%、前回2.8%）、⑨アクセサリ250万円（3.1%、前回5.0%）の順であった。

お金を使った地域では、静岡市5,470万円（全体の67.8%、前回59.0%）静岡市を除く静岡県600万円（7.4%、前回21.7%）、静岡県を除く全国2,010万円（24.9%、前回19.3%）と、約3分の2が開催地の静岡市となっている。静岡市と全国での支出のウェイトが高くなっている。静岡市を除く静岡県のウェイトが低くなったのは、美容費、洋服・帽子などの費目への支出額が減っているためであるが、その理由を推察することは難しい。

(3) 宿泊費

宿泊費は平均で1人あたり8,937円であった。アンケート調査565人のうち75人（13.3%）が宿泊しているが、この宿泊率を全参加者7,980人に乗じると、1,059人が宿泊していると推計できる（前回854人）。うち静岡市内で819人（前回617人）、静岡市を除く静岡県内で85人（前回95人）、静岡県外では155人（前回142人）となっている。静岡県外への宿泊は、参加を控え友人たちと合流するため県外で前泊した人がいることも想定される。

宿泊費の総額は950万円と前回の680万円より増えているが、これは1人あたりの支出額8,937円が前回の7,990円より増えていることと、宿泊者数1,059人が前回854人より増えていることによる。（宿泊費の詳細は、表18、表19を参照のこと）

(4) 飲食費

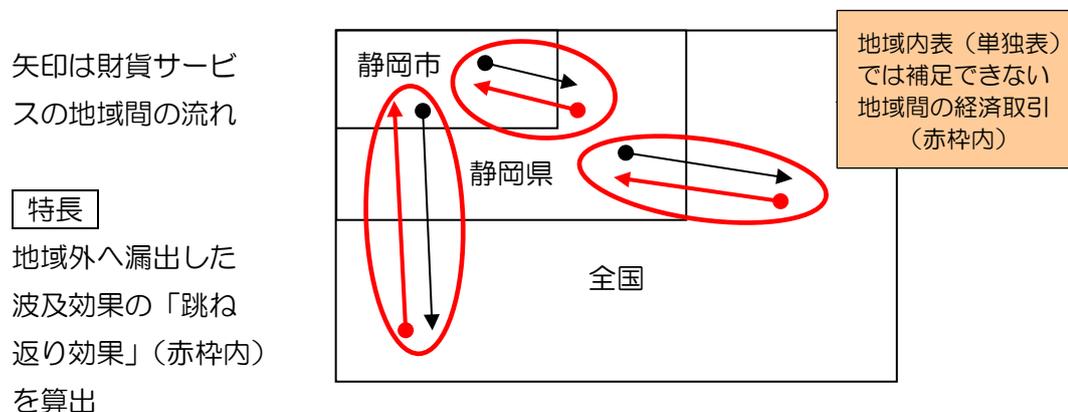
飲食費は、参加者の支出率、支出額ともに最も大きい費目となっている。お金を使った地域では、静岡市内が2,300万円と総額2,380万円の96.6%と殆どを占め、支出地域別に占める静岡市に落ちたお金の総額5,470万円の42.0%になるなど、開催地である静岡市の割合の高さに大きく寄与している。

3. 地域経済波及効果の分析

(1) 経済波及効果の分析方法

項目	解説
分析対象地域	○静岡市 ○静岡県
最終需要	○経済波及効果の起点となるお金の支出 ○本調査では、次の支出を取り上げている。 ① 来場者の支出 ② 来場者の交通費（自動車の燃料代を含む） ③ 主催者の運営経費
基礎データとしての産業連関表の特徴	○平成 27 年静岡市産業連関表（静岡市）と平成 27 年産業連関表（静岡県）、平成 27 年産業連関表（国：総務省統計局）の3地域の産業連関表を連結させた「平成 27 年静岡市-静岡県-全国3地域間産業連関表」を作成し利用した。（ 図 17 及び図 18 参照 ）
理論モデルの特徴	○家計内生化モデルを使用（ 次ページ理論モデル参照 ）。波及効果の結果、生産誘発に伴って生じる雇用者所得と家計消費の誘発が、さらなる生産誘発をもたらすプロセスを収束するまで把握できる特徴がある。（通常は間接二次効果として1回だけ計算する）
経済波及効果	○以下の効果を算出した。 ① 生産誘発効果（企業・産業への効果） ② 雇用効果（家計への効果） ③ 税収効果（市税、県税の増収など行政への効果） ④ 定住人口効果（地域社会への効果） ※雇用の誘発による家族を含む定住人口が増える効果

(図 17) 静岡市—静岡県—全国3地域間産業連関表で把握する地域間経済取引



(理論モデル式)

$$\begin{bmatrix} \Delta X \\ \Delta V \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} I - TA & -Tc \\ -v & I \end{bmatrix} \begin{bmatrix} T\Delta F_d + \Delta E \\ 0 \end{bmatrix}$$

記号注 ΔX ：生産誘発額 ΔV ：誘発付加価値額 I ：単位行列
 T ：交易係数（地域別移出または移入配分率） A ：投入係数
 ΔF_d ：地域内最終需要の変化 ΔE ：移輸出の変化

(基礎データ)

初回（2019年）、第2回（2020年）のTGCしずおかの経済波及効果の計算で用いた静岡市及び静岡県の産業連関表は、平成23年（2011年）の産業連関表であった。今回は前回と同様に、5年ごとに作成される国（総務省統計局）と静岡県（知事直轄組織データ活用推進課）の最新の産業連関表である静岡市、静岡県、全国の平成27年（2015年）の各産業連関表を連結させた「平成27年静岡市-静岡県-全国3地域間産業連関表」を用いて分析にあたった。

図18 静岡市—静岡県—全国3地域間産業連関表のしくみ

投入		産出		中間需要						最終需要						生産額合計		
				静岡市		静岡県		全国		静岡市		静岡県		全国			輸出	輸入
				産業A	産業B	産業A	産業B	産業A	産業B	消費	投資	消費	投資	消費	投資			
中間投入	静岡市	産業A																
		産業B																
	静岡県	産業A																
		産業B																
	全国	産業A																
		産業B																
粗付加価値								→ヨコ行は財貨サービスの販路先を(産出)を示す										
生産額合計								↓タテ列は財貨サービスの購入元(投入)を示す										

(2) 経済波及効果の起点となる最終需要

地域経済波及効果の起点となるのが最終需要であるが、TGCしずおか2024の最終需要は、次の2つが柱となる。

- ① 最終需要1 来場者の支出（交通費、宿泊費、飲食費、買い物、美容など）
- ② 最終需要2 主催者の運営経費

うち、①の来場者の支出は、開催当日、会場内で参加者に実施したアンケート調査結果（n=565）をもとに1人あたり費目別平均支出額を得た。交通費は、燃料代など回答者が正確に回答できない品目もあるため、分析にあたって推計した。最終需要1はこの1人あたり支出額に来場者数（7,980人）に乗じて求めた。

① 最終需要 1 - 来場者の支出（宿泊・飲食・買い物・交通費）

ア 宿泊・飲食・買い物

来場者の費目別 1 人あたり支出額を「全参加者の中の支出者数」に乗じた「全参加者推定支出額」は、次の表 21 の通りとなった。後者は、アンケートの費目別回答者数をアンケート回答者総数（n=565）で割った比率を、全参加者数 7,980 人に乗じている。

表 21 来場者の支出額（宿泊、飲食、買い物等—交通費を除く）（表 20 再掲）

費目 支出地域	回答者数 支出額	回答者 数 (人)	支出した 人の比 率	回答額計 (円)	回答者 1 人 当り支 出額(円)	全参加者中 の支出者数 (人)	全参加者 推定支出 額 (100万円)	(参考: 過去の実績) 全参加者の推定支出額 (100万円)		
	記号・計算式							A	対回答 者565人	B
宿泊費	総数	75	13.3%	670,300	8,937	1,059	9.5	6.8	4.1	7.0
	静岡市内	58		514,700	8,874	819	7.3	4.6	2.7	4.3
	静岡県内	6		45,600	7,600	85	0.6	0.9	1.3	1.6
	静岡県外	11		110,000	10,000	155	1.6	1.4	0.1	1.1
飲食費	総数	403	71.3%	1,683,310	4,177	5,692	23.8	14.4	11.4	19.8
	静岡市内	384		1,629,810	4,244	5,424	23.0	12.4	8.9	14.9
	静岡県内	17		49,500	2,912	240	0.7	1.1	1.6	4.2
	静岡県外	2		4,000	2,000	28	0.1	0.9	0.9	0.6
洋服・ 帽子	総数	186	32.9%	1,007,450	5,416	2,627	14.2	15.3	30.8	81.1
	静岡市内	103		464,150	4,506	1,455	6.6	8.3	18.6	46.8
	静岡県内	15		93,500	6,233	212	1.3	3.4	6.1	20.1
	静岡県外	68		449,800	6,615	960	6.4	3.6	6.1	14.2
シ ン ユ ー ズ	総数	76	13.5%	373,000	4,908	1,073	5.3	7.0	14.4	84.0
	静岡市内	27		128,000	4,741	381	1.8	4.3	7.6	36.4
	静岡県内	14		74,000	5,286	198	1.0	1.8	3.8	25.4
	静岡県外	35		171,000	4,886	494	2.4	0.9	3.0	22.2
ア ク セ サ	総数	85	15.0%	179,716	2,114	1,201	2.5	3.7	8.4	65.9
	静岡市内	55		103,000	1,873	777	1.5	2.3	6.5	28.9
	静岡県内	11		17,708	1,610	155	0.3	0.2	1.4	21.7
	静岡県外	19		59,008	3,106	268	0.8	1.2	0.5	15.3
化 粧 品	総数	213	37.7%	548,430	2,575	3,008	7.7	4.4	11.5	58.2
	静岡市内	118		235,430	1,995	1,667	3.3	2.4	7.2	25.2
	静岡県内	16		26,400	1,650	226	0.4	1.1	3.0	18.3
	静岡県外	79		286,600	3,628	1,116	4.0	0.9	1.3	14.7
グ 会 場 内	総数	129	22.8%	198,100	1,536	1,822	2.8	2.1	3.5	28.6
	静岡市内	127		196,100	1,544	1,794	2.8	1.8	2.3	23.5
	静岡県内	1		1,000	1,000	14	0.0	0.3	0.6	4.5
	静岡県外	1		1,000	1,000	14	0.0	0.1	0.6	0.6
お 土 産	総数	192	34.0%	374,820	1,952	2,712	5.3	2.5	3.1	10.5
	静岡市内	188		360,820	1,919	2,655	5.1	2.2	2.5	9.5
	静岡県内	3		12,000	4,000	42	0.2	0.1	0.5	0.6
	静岡県外	1		2,000	2,000	14	0.0	0.2	0.1	0.3
美 容 費	総数	116	20.5%	681,000	5,871	1,638	9.6	18.3	24.2	80.8
	静岡市内	40		241,000	6,025	565	3.4	6.0	12.7	37.2
	静岡県内	18		103,500	5,750	254	1.5	7.3	6.3	23.4
	静岡県外	58		336,500	5,802	819	4.8	5.1	5.1	20.2
総 合 計	総数(延べ)	1,475	261.1%	5,716,126	3,875	20,833	80.7	74.7	111.3	436.0
	静岡市内	1,100		3,873,010	3,521	15,536	54.7	44.1	69.0	226.7
	静岡県内	101		423,208	4,190	1,427	6.0	16.2	24.7	119.9
	静岡県外	274		1,419,908	5,182	3,870	20.1	14.4	17.7	89.3

(注1) 総合計の「総数(延べ)」は、1人の人が複数の費目で支出しているため「回答者数」「全参加者中の支出者数」が実人数より多い。

(注2) 美容費は「静岡市内で美容(ネイルやエステ、ヘアカット)などに使った金額」を尋ねているが、本表では他地域での回答も含めた。

表 21 の来場者の支出の合計額は 8,070 万円であった。表の右より第 3 列に掲げた前回 2023 年の 7,470 万円から 8.0%増加した。

前々回の 2020 年の支出総額 1 億 1,130 万円から前回 2023 年の 7,470 万円へと減少した理由については、前回の報告書で、「コロナ下で収入が伸び悩む中で買い控えをしている女性の購買行動」と分析したが、コロナ禍も回復に向かっていることから、増加に転じていることがうかがえる。

イ 交通費

本報告書 18 ページで交通費を尋ねた回答の結果を掲げたが、経済波及効果の算出にあたっては、回答しにくい自家用車の燃料代などの支出もあるため、回答者の居住地、交通手段などの回答をもとに、あらためて回答者一人ひとりの交通費を推計し集計した。

推計結果は、表 22 の通りである。総額で 4,750 万円（前回 5,450 万円）であった。

交通手段別には、新幹線・JR在来線が最も多く、3,597 万円であった。路線バスのほか、遠方から高速道路を走行している高速バスで来場する人も少なくなく、276 万円となっている。自家用車の来場者の費用は 874 万円であった。

地域別では、静岡市内に 398 万円（交通費全体の 8.4%）、静岡市を除く静岡県内に 1,737 万円（36.6%）、静岡県を除く全国に 2,616 万円（55.1%）となっている。

表 22 来場者の交通費

(単位:万円)

交通手段	交通費を支出した地域			合計
	静岡市	静岡市を除く静岡県	静岡県を除く全国	
飛行機		1.5	1.5	3
新幹線・JR在来線	256	1,228	2,113	3,597
路線バス・高速バス・タクシー	20	74	182	276
自家用車	122	433	319	874
燃料代	45	144	93	282
有料道路料金	76	289	226	592
合計	398	1,737	2,616	4,750

交通費を支出した地域については、産業連関表の「発生主義」(生産活動が行われた地域、お金が動いた現金主義ではない)にもとづいて、新幹線・JR在来線は、例えば東京駅から静岡駅までの鉄道運賃を、走行距離で、静岡市内、静岡市を除く静岡県、静岡県を除く全国の 3 地域に按分している。旅客を運ぶ輸送サービスがそれぞれの地域内で生産されるという意味である。

同じく自家用車で参加した人の燃料代や有料道路料金については、自動車ルート検索 NAVITINE を用いて、居住地の都県庁や市役所所在地から会場のツインメッセ静岡北館までの燃料使用量や有料道路代のデータを得て、鉄道と同じく各地域内の走行距離で按分している。燃料のガソリンは開催時の全国の価格 1 リットル 176 円を用いた。

表 23 は、表 22 にまとめた交通費の詳細内訳表である。

表 23 来場者の交通費の詳細表一次ページへ続く

1. 静岡市

交通手段	回答者数 (人)	同行者数 (人)	片道交通費				1人あたり 往復交通費 (注1)	推定利用 者数 (人) (注2)	交通費 総額 (万円)	(地域配分)(注3)		
			鉄道・ 新幹線	バス・タ クシー	自動車費用					静岡市	静岡県	全国
					燃料	有料 道路						
記号・算式	A	B	C		D		E	F	G			
静岡市	13			160			320	187	6	6		
	6						-	86	-	-		
	10						-	144	-	-		
	65	2.6			90		70	934	7	7		
23			350				700	330	23	23		
計(注5)	117							1,681	36	36		

(注1) E=C×2 or E=D×2÷B 燃料代、同行者数は小数をもつ数字なので、表出の数字で計算しても結果が合わない場合がある
(注2) 推定利用者数は、回答者総数565人に対する比率を参加者総数7,980人に乗じた
(注3) G：駅間料金・距離で按分 (注4) -：徒歩のみ、自転車と回答
(注5) 交通手段の回答に「新幹線」と回答した2名を除く

2 静岡市を除く静岡県

居住地	回答者数 (人)	同行者数 (人)	片道交通費				1人あたり 往復交通費 (注1)	推定利用 者数 (人) (注2)	交通費 総額 (万円) (注3)	(地域配分)(注4)		
			鉄道・ 新幹線	バス・タ クシー	自動車費用					静岡市	静岡県	全国
					燃料	有料 道路						
記号・算式	A	B	C		D		E	F	G			
伊豆市	1	3.0			1,077	2,070	2,098	24	5.1	2.0	3.1	
西伊豆町	1	2.0			1,607	2,070	3,677	24	8.9	2.5	6.5	
三島市	1	3.0			852	1,670	1,681	24	4.1	2.1	2.0	
沼津市	4	4.0			827	1,670	1,248	97	12.1	6.5	5.6	
〃	1		990				1,980	24	4.8	2.6	2.2	
御殿場市	1	1.0			995.3	2,200	6,391	24	15.5	6.6	8.9	
裾野市	2		1,170				2,340	49	11.4	6.0	5.4	
小山町	1		1,520				3,040	24	7.4	2.9	4.5	
富士宮市	2	2.0			613	1,170	1,783	49	8.7	6.1	2.6	
富士市	7		590				1,180	170	20.0	16.0	4.0	
〃	7	2.0			546	1,170	1,716	170	29.1	23.3	5.8	
焼津市	7		240				480	170	8.2	4.6	3.5	
〃	6	1.8			294		321	146	4.7	2.7	2.0	
〃	1			430			860	24	2.1	1.2	0.9	
藤枝市	6		420				840	146	12.2	6.0	6.2	
〃	9	2.0			347		347	218	7.6	3.7	3.9	
島田市	5		510				1,020	121	12.4	4.5	7.9	
〃	2	1.5			439		586	49	2.8	1.0	1.8	
〃	1			700			1,400	24	3.4	1.2	2.2	
牧之原市	1		770				1,540	24	3.7	1.2	2.5	
〃	4	3.3			514		317	97	3.1	1.0	2.1	
吉田町	1	2.0			436	890	1,326	24	3.2	1.2	2.0	
菊川市	1		770				1,540	24	3.7	1.0	2.8	
〃	4	3			606	1,330	1,291	97	12.5	3.2	9.3	
掛川市	3		860				1,720	73	12.5	2.8	9.8	
〃	2	3			703		562	49	2.7	0.6	2.1	
袋井市	4	3			837	1,800	1,918	97	18.6	3.4	15.2	
磐田市	4	2			898		898	97	8.7	1.5	7.2	
浜松市	2		2,330				4,660	49	22.6	3.3	19.3	
〃	11		1,340				2,680	267	71.5	10.3	61.2	
〃	15	2			1,072	2,220	2,826	364	102.9	14.8	88.0	
計	117							2,839	446.3	145.6	300.7	

(注1) E=C×2 or E=D×2÷B 燃料代、同行者数は小数をもつ数字なので、表出の数字で計算しても結果が合わない場合がある
(注2) 推定利用者数は、回答者総数565人に対する比率を参加者総数7,980人に乗じた
(注3) 交通費総額には、居住地の市町名不記入の人を回答者数で按分して含めた回答者数の比率を参加者総数に乗じた
(注4) G：駅間料金・距離で按分

表 23 来場者の交通費の詳細表一前ページの続き

3 静岡県を除く全国

居住地	回答者数 (人)	同行者数 (人)	片道交通費				1人あたり 往復交通費 (注1)	推定利用 者数 (人) (注2)	交通費 総額 (万円) (注3)	(地域配分)(注4)		
			鉄道・ 新幹線	バス・タ クシー	自動車費用					静岡市	静岡県	全国
					燃料	有料 道路						
記号・算式	A	B	C		D		E	F	G			
愛知県	9		5,940				11,880	189	224	15	107	102
〃	7		3,410				6,820	147	100	7	48	46
〃	15	2.1			2,219	6,270	7,971	315	251	17	120	114
三重県	3		7,150				14,300	63	90	4	32	54
〃	2	2.0			3,001	6,330	9,331	42	39	2	14	23
岐阜県	5		6,270				12,540	105	131	7	51	73
〃	1		3,740				7,480	21	16	1	6	9
〃	3	2.0			2,714	5,490	8,204	63	52	3	20	29
岩手県	1	1.0	10,670				21,340	21	45	1	5	39
宮城県	1	1.0		10,300			20,600	21	43	1	6	36
福島県	1	2.0	13,750				27,500	21	58	2	10	46
茨城県	2	3.0	8,030				16,060	42	67	3	18	47
〃	1	6.0	5,500				11,000	21	23	1	6	16
〃	2	4.0			3,482	8,740	6,111	42	26	1	7	18
栃木県	2	4.0	10,210				20,420	42	86	4	22	60
〃	1	6.0	5,170				10,340	21	22	1	6	15
〃	1	2.0			3,577	7,910	11,487	21	24	1	6	17
群馬県	1	2.0	10,210				20,420	21	43	2	12	28
埼玉県	13	2.2	6,270				12,540	273	342	21	133	188
〃	1	6.0			2,371	6,190	2,854	21	6	0	2	3
千葉県	9	2.3	6,270				12,540	189	237	13	83	140
〃	1	6.0			2,605	6,800	3,135	21	7	0	2	4
東京都	19	2.3	5,940				11,880	398	473	34	210	230
〃	4	2.8	3,410				6,820	84	57	4	25	28
〃	6	3.3			2,084	6,190	4,969	126	63	4	28	30
〃	2	1.5		3,410			6,820	42	29	2	13	14
神奈川県	8	1.9	5,420				10,840	168	182	14	86	82
〃	3	3.3	2,640				5,280	63	33	3	16	15
〃	4	3.0			1,951	6,010	5,307	84	45	3	21	20
〃	2	2.0		5,400			10,800	42	45	3	21	20
滋賀県	1	2.5	10,090				20,180	21	42	2	11	29
大阪府	4	2.0	10,560				21,120	84	177	7	41	130
〃	2	1.5		6,380			12,760	42	54	2	12	39
和歌山県	1	1.0	11,750				23,500	21	49	2	9	38
兵庫県	3	2.7	11,150				22,300	63	140	5	30	106
〃	2	2.0		6,930			13,860	42	58	2	12	44
広島県	3	2.0	16,270				32,540	63	205	4	24	176
愛媛県	2	2.5	17,640				35,280	42	148	3	17	128
新潟県	1	2.0		8,610			17,220	21	36	1	6	29
山梨県	1	2.0	2,310				4,620	21	10	1	7	1
〃	4	2.5			1,206	2,080	2,629	84	22	3	17	3
長野県	6	2.3			2,923	5,460	7,186	126	90	5	28	58
石川県	3	2.3	18,600				37,200	63	234	7	46	181
富山県	2	1.5	17,820				35,640	42	149	6	37	106
	165						623,624	3,460	4,272	223	1,435	2,614

(注1) E=C×2 or E=D×2÷B 燃料代、同行者数は小数をもつ数字なので、表出の数字で計算しても結果が合わない場合がある
(注2) 推定利用者数は、回答者総数565人に対する比率を参加者総数7,980人に乗じた
(注3) 交通費総額には、居住地の市町名不記入の人を回答者数で按分して含めた回答者数の比率を参加者総数に乗じた
(注4) G： 駅間料金・距離で按分

② 最終需要2—主催者の運営支出

経済波及効果の起点となる第2の柱として、開催に係る主催者の運営支出がある。そのうち、静岡市内、静岡県内（静岡市を含む）における運営支出額は、それぞれ4,360万円、6610万円と見込まれる。静岡県外も含めた総額は、個別企業の売上額にかかわるため記載を略した。

③ 最終需要のまとめ

以上をまとめると、経済波及効果の起点となる最終需要の額と地域別支出額は、表24の通りとなる。「2.主催者の運営経費」は個別企業の売上となるため、Xで関連項目を秘匿扱いとしている。

費目別では「1.来場者の支出」が1億2,820万円（前回1億2,920万円）で、その内訳は「(1) 宿泊費・飲食費・買い物など」が8,070万円（前回7,470万円）、「(2) 交通費」が4,750万円（前回5,450万円）であった。来場者の買い物などが増えている反面で、交通費が減少していることで、総額は前回とほぼ同額となっている。

地域別では静岡市が1億520万円（前回1億670万円）、静岡市を含む静岡県が1億5,420万円（1億6,470万円）であった。静岡市以外の静岡県内が、「(1) 宿泊費・飲食費・買い物など」の減少により、前回の1,620万円から今回600万円に約1,000万円減少したことが静岡県内の最終需要の減少の原因となっている。

表24 最終需要のまとめ（費目別・支出地別）

（単位：100万円）

最終需要	支出先地域				合計
	静岡市内	静岡県内	静岡市を含む静岡県内	静岡県以外の全国	
1. 来場者の支出	58.7	23.3	82.0	46.2	128.2
(1) 宿泊費・飲食費・買い物など	54.7	6.0	60.7	20.1	80.7
(2) 交通費	4.0	17.4	21.3	26.2	47.5
2. 主催者の運営支出(注1)	46.5	25.6	72.1	X	X
合計	105.2	49.0	154.2	X	X

（注1）「2.主催者の運営支出」は個別企業の売上額となるため、Xで一部と全体を秘匿数字としている。

（注2）数字の合計を表す数字は、内訳数字が小数を持つため表出の数字を足した数字と一致しない。

（前回の開催の最終需要）

（単位：100万円）

前回TGC(2023年)最終需要	支出先地域				合計
	静岡市内	静岡県内	静岡市を含む静岡県内	静岡県以外の全国	
1. 来場者の支出	55.2	32.0	87.2	42.0	129.2
(1) 宿泊費・飲食費・買い物など	44.1	16.2	60.3	14.4	74.7
(2) 交通費	11.0	15.8	26.8	27.6	54.5
2. 主催者の運営支出(注1)	51.5	26.0	77.5	X	X
合計	106.7	58.0	164.7	X	X

（注1）「2.主催者の運営経費」の扱いは同上。

（注2）数字の合計を表す数字は、内訳数字が小数を持つため表出の数字を足した数字と一致しない。

(3) 経済波及効果の分析結果

① 企業・産業への経済波及効果（生産誘発効果）

TGC しずおか 2024 の経済波及効果の総額は、表 25 の通り全国で 8 億 3,140 万円であった（前回 8 億 200 万円、+3.7%）。

地域別では、静岡市内が 2 億 770 万円（2 億 570 万円、+1.0%）、静岡市を除く静岡県内が 1 億 130 万円（1 億 1,170 万円、-9.3%）、静岡市を含む静岡県内では 3 億 900 万円（3 億 1,740 万円、-2.6%）、静岡県を除く全国が 5 億 2,240 万円（4 億 8,460 万円、+7.8%）であった。

特徴として、経済波及効果の起点となる最終需要の総額は、今回と前回とでほぼ同額であるが、経済波及効果の結果について、静岡市を除く静岡県が減少し、静岡県以外の都道府県が増加しているのは、最終需要の交通費の中の自家用車の燃料代や有料道路料金、鉄道輸送の地域配分の基礎データである県間距離などを今回見直して精度を高めた結果、直接効果が静岡県から全国へと比重を移した影響などによる。

また、最終需要と直接効果の合計額が、今回と前回とで同一であるにもかかわらず、経済波及効果の総額が 3.7%の増加となった理由は、来場者の支出内容や支出地域が変わることにより、お金がより波及効果の高い産業や地域に比重が移ったことによると推察される。

表 25 の「地域間の跳ね返り効果」の欄は、例えば、静岡市内へ波及した効果から、原材料ルートなどの波及を通じて静岡市を除く静岡県に 1,330 万円、全国に 1 億 220 万円のさらなる波及効果があったことなど、地域間で波及効果が共鳴し、いわば「こだま」している姿が分かる。

表 25 経済波及効果のまとめ

(100万円)

項目	記号/ 算式	内容	静岡県			静岡県 以外の 都道府 県	全国/ 合計
			静岡市	静岡市を 除く 静岡県	静岡県 合計		
最終需要	A	経済波及効果の起点	105.2	49.0	154.2	X	X
直接効果	B	地域に直接落ちるお金	104.9	49.0	153.9	125.6	272.6
間接効果	C	地域内間接効果 + 跳ね返り効果	102.8	52.4	155.1	396.8	558.9
経済波及効果	D=B+C	産業への効果(生産誘発)	207.7	101.3	309.0	522.4	831.4
地域間の 跳ね返り効果	E	静岡市から市内外への効果	201.5	13.3	214.8	102.2	317.1
	F	静岡県から静岡市と全国への波及	5.7	85.2	90.9	52.8	143.7
	G	全国から静岡市と県への波及	0.5	2.8	3.3	367.4	370.7
※波及倍率	H=D/B	経済波及効果 ÷ 直接効果	1.98	2.07	2.01	4.16	3.05
雇用効果(人)	H	家計への効果(就業者誘発)	24	10	34	63	97
税収効果(100万円)	I	行政への効果(税・交付金等増収)	8.5	...	10.2
定住人口効果(人)	J	地域社会への効果(定住人口創出)	43		66		...

表 26 は、経済波及効果の大きかった上位 50 位を静岡県内合計を基準にみたものである。商業の波及効果は売上額から仕入れ額を引いた商業マージンである。住宅賃貸料（帰属家賃）は持ち家の効用を金銭評価したものである。上位には、その他対事業所サービス、商業、鉄道輸送などがきていて、3 位の飲食サービスには市内で 2,850 万円、宿泊業は 10 位で県内には 1,030 万円の効果があった。

表 26 産業別にみた経済波及効果（静岡県内合計を基準に上位 50 位：100 万円）

順位	産業部門番号	産業別経済波及効果 (107部門) 合計	静岡市内	静岡市を除く静岡県内	合計 (静岡県内)	静岡市内	静岡市を除く静岡県内	合計(静岡県内)
						100.0%	100.0%	100.0%
		合計	207.7	101.3	309.0	100.0%	100.0%	100.0%
1	100	その他の対事業所サービス	23.7	20.4	44.1	11.4%	20.2%	14.3%
2	070	商業	24.0	8.7	32.7	11.5%	8.6%	10.6%
3	102	飲食サービス	28.5	2.6	31.2	13.7%	2.6%	10.1%
4	075	鉄道輸送	3.6	12.9	16.5	1.7%	12.7%	5.3%
5	074	住宅賃貸料(帰属家賃)	10.9	5.5	16.4	5.2%	5.4%	5.3%
6	105	その他の対個人サービス	14.9	0.7	15.7	7.2%	0.7%	5.1%
7	008	食料品	8.2	3.2	11.4	3.9%	3.1%	3.7%
8	098	広告	5.5	4.9	10.5	2.7%	4.9%	3.4%
9	071	金融・保険	7.0	3.4	10.4	3.4%	3.4%	3.4%
10	101	宿泊業	9.4	0.9	10.3	4.5%	0.9%	3.3%
11	096	他に分類されない会員制団体	8.4	0.4	8.8	4.1%	0.4%	2.9%
12	103	洗濯・理容・美容・浴場業	4.6	2.0	6.6	2.2%	2.0%	2.1%
13	082	運輸附帯サービス	2.3	3.4	5.6	1.1%	3.3%	1.8%
14	084	通信	3.8	1.2	5.0	1.8%	1.2%	1.6%
15	066	電力	3.2	1.5	4.7	1.5%	1.4%	1.5%
16	013	衣服・その他の繊維既製品	3.6	1.0	4.6	1.7%	1.0%	1.5%
17	077	自家輸送	3.2	1.1	4.3	1.5%	1.1%	1.4%
18	076	道路輸送(除自家輸送)	2.6	1.7	4.3	1.2%	1.7%	1.4%
19	085	放送	2.2	2.0	4.2	1.0%	2.0%	1.4%
20	026	化学最終製品	3.3	0.7	4.0	1.6%	0.7%	1.3%
21	072	不動産仲介及び賃貸	2.7	1.1	3.7	1.3%	1.0%	1.2%
22	079	航空輸送	0.4	3.2	3.6	0.2%	3.2%	1.2%
23	073	住宅賃貸料	2.1	1.1	3.2	1.0%	1.1%	1.0%
24	099	自動車整備・機械修理	2.0	0.9	2.9	0.9%	0.9%	0.9%
25	092	医療	1.9	1.0	2.9	0.9%	0.9%	0.9%
26	090	教育	1.8	0.9	2.7	0.9%	0.9%	0.9%
27	104	娯楽サービス	1.8	0.9	2.7	0.8%	0.9%	0.9%
28	069	廃棄物処理	1.5	0.8	2.3	0.7%	0.8%	0.7%
29	009	飲料	1.4	0.9	2.3	0.7%	0.9%	0.7%
30	027	石油製品	1.1	0.9	2.0	0.5%	0.9%	0.6%
31	031	なめし革・革製品・毛皮	1.2	0.6	1.8	0.6%	0.6%	0.6%
32	068	水道	1.3	0.5	1.8	0.6%	0.5%	0.6%
33	067	ガス・熱供給	1.4	0.3	1.7	0.7%	0.3%	0.6%
34	097	物品賃貸サービス	1.1	0.4	1.6	0.6%	0.4%	0.5%
35	094	社会保険・社会福祉	1.0	0.5	1.5	0.5%	0.5%	0.5%
36	001	耕種農業	0.8	0.6	1.5	0.4%	0.6%	0.5%
37	060	その他の製造工業製品	1.1	0.3	1.4	0.5%	0.3%	0.5%
38	063	建設補修	0.7	0.5	1.2	0.3%	0.5%	0.4%
39	055	乗用車	0.8	0.4	1.2	0.4%	0.4%	0.4%
40	086	情報サービス	0.8	0.3	1.1	0.4%	0.3%	0.4%
41	107	分類不明	0.6	0.5	1.1	0.3%	0.5%	0.3%
42	017	紙加工品	0.3	0.7	1.0	0.1%	0.7%	0.3%
43	029	プラスチック製品	0.3	0.6	0.9	0.1%	0.6%	0.3%
44	018	印刷・製版・製本	0.6	0.2	0.9	0.3%	0.2%	0.3%
45	011	たばこ	0.5	0.3	0.8	0.2%	0.3%	0.2%
46	053	通信・映像・音響機器	0.5	0.3	0.7	0.2%	0.2%	0.2%
47	050	民生用電気機器	0.4	0.2	0.6	0.2%	0.2%	0.2%
48	089	公務	0.4	0.2	0.6	0.2%	0.2%	0.2%
49	057	自動車部品・同附属品	0.1	0.5	0.6	0.0%	0.5%	0.2%
50	106	事務用品	0.4	0.2	0.5	0.2%	0.2%	0.2%

② 家計への雇用効果

生産の増加は、就業者数の増加につながる。TGCは1日だけのイベントであるため、静岡市内や県内での恒常的な雇用増加は見込めないが、1日だけの生産の大きな増加が雇用市場に与えるインパクトを通年の正規雇用換算で表すと、静岡市内で24人(24.1人)、静岡市も含めた静岡県内へは34人(33.7人)の雇用を創出するインパクトを持っている。

産業別には、会場設営や運営にかかわる「その他の他事業所サービス」への影響が最も大きい。静岡市内(5.2人≒約5人)、静岡県内(9.7人≒約10人)となっている。

次いで、参加者の支出にかかわる産業群で、第2位に「飲食サービス」で、静岡市5人(4.7人)、静岡県内5人(5.1人)がきている。第3位の「商業」は、静岡市3人(3.2人)、静岡県内4人(4.3人)となっている。

繰り返しになるが、この雇用効果は、正規雇用者を年間を通じて雇いあげた効果として算出しているため、数字が小さいように見えるが、1日だけのイベントであるTGCしずおか2024が、年間を通じて正規雇用を静岡市内で24人、静岡市を含む静岡県内で34人(表出していないが、静岡県を除く全国では63人、合計で97人)を創出する力を持っている雇用創出力は大きい。

表 27 雇用効果(静岡市・静岡市を含む静岡県)

(単位:人)			(単位:人)		
順位	静岡市	雇用効果	順位	静岡県(静岡市を含む)	雇用効果
	合計			合計	
	合計	24.1		合計	33.7
1	その他の対事業所サービス	5.2	1	その他の対事業所サービス	9.7
2	飲食サービス	4.7	2	飲食サービス	5.1
3	商業	3.2	3	商業	4.3
4	その他の対個人サービス	3.1	4	その他の対個人サービス	3.3
5	他に分類されない会員制団体	1.0	5	他に分類されない会員制団体	1.1
6	宿泊業	0.9	6	洗濯・理容・美容・浴場業	1.1
7	衣服・その他の繊維既製品	0.8	7	耕種農業	1.0
8	洗濯・理容・美容・浴場業	0.7	8	衣服・その他の繊維既製品	1.0
9	耕種農業	0.6	9	宿泊業	1.0
10	道路輸送(除自家輸送)	0.3	10	広告	0.7

順位	産業別にみた雇用効果(人)		静岡県を除く全国	合計(全国)
	順位	雇用効果		
	合計		63.1	96.8
1	100	その他の対事業所サービス	5.1	14.8
2	105	その他の対個人サービス	11.2	14.4
3	098	広告	10.0	10.6
4	070	商業	6.2	10.5
5	075	鉄道輸送	7.9	8.2
6	102	飲食サービス	0.4	5.5
7	088	映像・音声・文字情報制作	3.7	3.6
8	001	耕種農業	2.4	3.4
9	103	洗濯・理容・美容・浴場業	2.1	3.2
10	087	インターネット附随サービス	2.3	2.4

③ 行政への税収効果

行政への効果である税収効果は、静岡市の歳入効果が850万円（前回880万円）、静岡県では1,020万円（1,070万円）となった。前回よりわずかに減少しているが、経済波及効果の及ぶ産業の付加価値（雇用者所得、営業余剰など）の構成とともに、静岡市を除く静岡県内への経済波及効果の減少（-9.3%）が影響していると推察される。なお、表中の注については、次ページに記載している。

表 28 静岡市・静岡県の税収効果

1. 静岡市の税収効果

（単位：100万円）

静岡市の税収効果		課税標準対応項目 (産業連関表項目)	H27年産業 連関表より	H28年度一 般会計税収 額等	税率係数	生産誘発 額など	税収効果
記号・算式			A	B	$t=B \div A$	ΔX	$\Delta T = \Delta X \cdot t$
市税	1.1 市町村民税(個人)	雇用者所得合計	1,540,614	41,908	0.0272	58	1.6
	1.2 市町村民税(法人)	営業余剰合計	627,013	10,810	0.0172	23	0.2
	2 固定資産税(注1)	設備投資額	648,036	52,978	0.0140	23	0.2
	3 軽自動車税	市内生産額合計	5,845,672	1,400	0.0002	208	0.0
	4 市町村たばこ税	民間消費支出計	1,655,446	4,571	0.0028	61	0.2
	5 入湯税	民間消費支出計	1,655,446	28	0.0000	61	0.0
	6 事業所税	市内生産額合計	5,845,672	4,065	0.0007	208	0.1
	7 都市計画税	市内生産額合計	5,845,672	10,570	0.0018	208	0.4
市税合計				126,330			2.8
地方 交付 金等	1 地方譲与税(注2)	市内生産額合計	5,845,672	2,289	0.0004	208	0.1
	2 地方交付税(注3)	域内総生産額(GRP)	3,071,546	11,405	0.0037	113	0.4
	3 地方消費税交付金	民間消費支出	1,655,446	13,212	0.0080	61	0.5
	4 その他(注4)	域内総生産額(GRP)	3,071,546	129,259	0.0421	113	4.8
	地方交付金等合計				156,166		
市町村税及び経済活動関連交付金増収額(合計)				282,496			8.5

2. 静岡県の税収効果

（単位：100万円）

静岡県の税収効果		課税標準対応項目 (産業連関表項目)	H27年産業 連関表より	H28年度一 般会計税収 額等	税率係数	生産誘発 額など	税収効果
記号・算式			A	B	$t=B \div A$	ΔX	$\Delta T = \Delta X \cdot t$
県税	1.1 県民税(個人)	雇用者所得合計	8,101,258	152,639	0.0188	85	1.6
	1.2 県民税(法人)	営業余剰合計	2,976,867	16,638	0.0056	35	0.2
	1.3 利子割・配当割など	雇用者所得・営業余剰	11,078,125	169,277	0.0153	121	1.8
	2 事業税	県内生産額合計	33,324,396	126,397	0.0038	309	1.2
	3 地方消費税	民間消費支出	8,688,991	86,294	0.0099	92	0.9
	4 不動産取得税	域内総生産額(GRP)	16,223,229	11,796	0.0007	113	0.1
	5 県たばこ税	民間消費支出	8,688,991	7,171	0.0008	92	0.1
	6 ゴルフ場利用税	民間消費支出	8,688,991	2,597	0.0003	92	0.0
	7 自動車取得税	県内生産額合計	33,324,396	4,760	0.0001	309	0.0
	8 軽油引取税ほか	県内生産額合計	33,324,396	36,814	0.0011	309	0.3
9 その他税	域内総生産額(GRP)	16,223,229	16,520	0.0010	171	0.2	
県税小計				630,902			6.3
地方 交付 金等	1 地方譲与税(注2)	県内生産額合計	33,324,396	13,240	0.0004	309	0.1
	2 地方交付税(注3)	域内総生産額(GRP)	8,688,991	103,644	0.0119	171	2.0
	4 各種交付金ほか(注4)	域内総生産額(GRP)	8,688,991	88,953	0.0102	171	1.8
	地方交付金等計				205,837		
県税及び経済活動関連交付金増収額(合計)				836,739			10.2

- (注 1) 静岡市の固定資産税の計算式は、前回は表中の計算式を用いていたが、産業連関表の民間設備投資額（建物の新築を含む）と固定資産税収（実績）とは対応させるのが難しいため、今回は、設備投資額×課税標準調整率 0.7×固定資産税率 1.4%の計算式を用いた。
- (注 2) 国税として徴収しそのまま地方公共団体に対して譲与する税。地方公共団体の財源とされているものについて、課税の便宜その他の事情から、徴収事務を国が代行している。現在、地方揮発油譲与税、地方道路譲与税、石油ガス譲与税、特別とん譲与税、自動車重量税の収入額の 3 分の 1（当分の間、1,000 分の 407）の額を市町村に対して譲与する自動車重量譲与税、地方法人特別譲与税がある。（総務省「決算カード」）地方への配分比率は地方道路延長（km）などで時々の経済活動には関係しない例が多いが、国税の課税対象自体が経済活動を反映しているため地方譲与税も経済活動に影響を受けるとしてここに挙げている
- (注 3) 地方交付金の配分基準も、配分原資となる国税（所得税・法人税など）が経済活動の影響を受けるため、ここに計上した。
- (注 4) 利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、ゴルフ場利用税交付金、特別地方消費税交付金、自動車取得税交付金など

④ 地域社会への定住人口効果

生産が増え、雇用機会も創出されれば、家族を含めた定住人口の増加につながる。産業連関分析で算出した雇用効果が、定住人口の増加につながる考え方を図 19 に図示した。

上述した雇用効果は、生産活動を支える就業者数なので、昼間の就業者数 (A+B) であって夜間人口の労働力状態を調べた就業者数 (A+C) ではない。

この市外から市内に通勤している人を含めた静岡市や静岡県の昼間の就業者数は、県内他市町や、他県から通勤している就業者数を含めて、総務省統計局『平成 27 年国勢調査』「従業地・通学地集計の「第 1 表 常住地又は従業地・通学地(27 区分)による人口、就業者数及び通学者数(流出口、流入人口、昼夜間人口比率—特掲) — 全国、都道府県、市区町村」に拠ることが必要である。

この昼間就業者数のうち、市内居住の就業者数 (A) の比率を「市内雇用効果係数」($A \div (A+B)$) とし、さらに A が支えている人口の比率 ($A \div (A+C)$) を「定住人口係数」とすれば、この 2 つの係数を使って、産業連関分析によって計算された雇用効果が、定住人口に与える効果を求めることができる。計算根拠となる数字を含めた手順を表 29 に示した。

図 19 定住人口効果を求める考え方

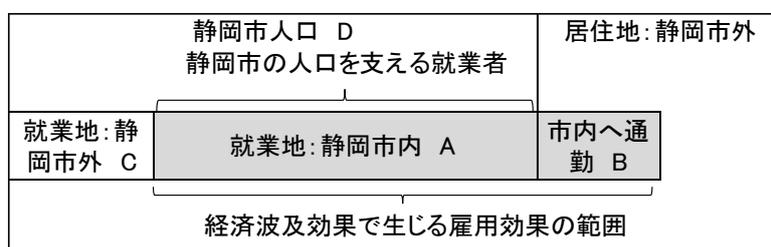


表 29 定住人口効果の計算手順 (静岡市・静岡市を含む静岡県) 一次ページへ続く

静岡市	項目	記号・算式	基礎数 (人)	比率
	静岡市人口	D	704,989	
	うち就業者(夜間)	A+C	350,852	1.000
	うち市内で就業する者	A	322,813	0.920
	うち市外で就業する者	C	28,039	0.080
	Aによって支えられている人口	$D = D \times A / (A+C)$	648,648	
	Aに対するDの比率(定住人口係数)	$e = Da/A$	2.009	
	就業者(昼間)	A+B	366,648	1.000
	うち市外居住者	B	43,835	0.120
	うち市内居住者	A	322,813	0.880
	市内雇用効果係数	$f = A / (A+B)$	0.880	
	定住人口効果 = 雇用効果 × 市内雇用効果係数 f × 定住人口係数 e			
	雇用効果		24 人	
	定住人口効果		43 人	

(注) 雇用効果と各係数は四捨五入して表出されているため、計算結果が表の数字と一致しない

表 29 定住人口効果の計算手順（静岡市・静岡市を含む静岡県）－前ページからの続き

静岡県

項目	記号・算式	基礎数 (人)	比率
静岡県人口	D	3,700,305	
うち就業者(夜間)	A+C	1,865,158	1.000
うち県内で就業する者	A	1,831,022	0.982
うち県外で就業する者	C	34,136	0.018
Aによって支えられている人口	$D = D \times A / (A + C)$	3,632,582	
Aに対するDの比率(定住人口係数)	$e = D_a / A$	1.984	
就業者(昼間)	A+B	1,864,886	1.000
うち県外居住者	B	33,864	0.018
うち県内居住者	A	1,831,022	0.982
県内雇用効果係数	$f = A / (A + B)$	0.982	
定住人口効果 = 雇用効果 × 市内雇用効果係数 f × 定住人口係数 e			
雇用効果		34 人	
定住人口効果		66 人	

定住人口の計算結果は、表 29 の通り、静岡市で 43 人、静岡市を含む静岡県内で 66 人となった。定住人口効果は、雇用効果と同じく 1 日のイベントである TGC しずおか 2024 で増加するものではないが、1 日のイベントの影響力を通年 365 日のイベントに分割して開催するとして換算すると、これだけのインパクトを持っているとすることができる。

(報告書 本文了)

(参考) 来場者にとっての TGC しずおか 2024 の「価値」の金銭評価

会場までの所要時間は、来場者にとって「それだけの時間や交通費をかけても参加したい」という TGC しずおか 2024 への期待感、価値観の一部を構成する。ここでは、会場までに要する時間の調査結果をもとに、来場者にとっての TGC しずおか 2024 の「価値」の大きさが、いったいどれくらいの金額にのぼるのか、推計してみよう。

1. TGC しずおか 2024 の価値の金銭評価の方法

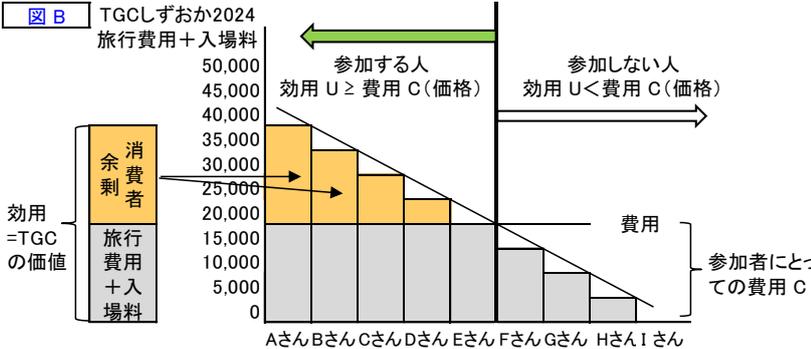
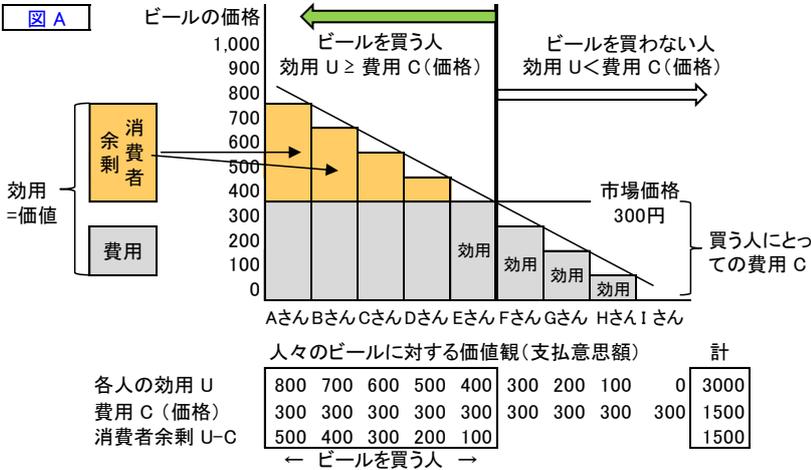
参加者にとって TGC しずおか 2024 の価値（価値観）は、参加するための費用（旅行費用＋入場料）と消費者余剰の合計で表される。

$$\text{TGC しずおか 2024 の価値} = \text{参加するための費用（旅行費用＋入場料）} + \text{消費者余剰}$$

参加者の価値観は、交通費や時間をかけて遠方から来場してでも、それより高い価値（効用）があると思うから TGC に参加しているので、参加者にとっての価値は、それを享受するためにかける費用より大きい。したがって、参加者がかける費用（旅行費用＋入場料の分布）を知ることができれば、参加者の価値観の一部を把握できることになる（参考図 1）。

この場合、旅行費用は、往復交通費に往復時間価値を加えたものである。時間価値はアンケートで回答してもらった「自宅から会場までの所要時間」（分に換算）に、国土交通省「時間価値原単位および走行経費原単位の算出方法」（平成 20 年 11 月）の「非業務目的の自家用乗用車同乗者の時間当たり機会費用」の 24.94（円/人・分）を乗じて往復の移動にかかる時間コストを金銭評価した。

参考図 1 TGC しずおか 2024 の参加者の効用（価値）は、旅行費用と消費者余剰で表される



2. TGC しずおか 2024 の参加者の旅行費用

旅行費用のうち、往復交通費は、アンケート調査では尋ねているが、回答の正確性を期すために、回答欄に記入された居住地、交通手段の情報をもとに、旅費の計算ソフト（※）を用いて一人ひとり計算した。

※ 鉄道：Yahoo 路線情報、自家用車：自動車ルート検索 NAVITIME
自動車ルート検索は、出発地を居住地の都道府県庁または市町村庁舎に、到着地を会場（ツインメッセ静岡北館）に設定した。

また、旅行費用は、以下の参加者の居住地別に次の8地域に分けて推計した。

1. 静岡市
2. 静岡県東部
3. 静岡市を除く静岡県中部
4. 静岡県西部
5. 東海地方
6. 関東・東北地方
7. 関西・中国・四国地方
8. 甲信越地方

それぞれの地域の旅行費用は、交通手段別に次の通り求めた。

（参考表 1）参加者の居住地別旅行費用

1. 静岡市

交通手段	人数 (人)	同行 人数 (人)	片道費用 (円)	片道時間 (分)	往復費用 (円)
バス	13		160	43.8	2,507
徒歩のみ	6			23.8	1,189
自転車	10			17.0	848
自家用車	65	2.6	90	31.8	1,659
電車	23		350	44.8	2,934
計	117				
平均(交通手段別往復費用を人数で加重平均)					1,910

(注)交通手段の問いに「新幹線」と回答した2名を除く

2. 静岡県東部

	人数 (人)	同行 人数 (人)	交通手段	片道鉄道 費用 (円)	片道自動車費用		片道時間 (分)	往復費用 (円)
					燃料 (円)	有料道路 (円)		
伊豆市	1	3.0	自家用車		1,077	2,070	120	8,084
西伊豆町	1	2.0	自家用車		1,607	2,070	150	11,159
三島市	1	3.0	自家用車		852	1,670	60	4,674
沼津市	4	4.0	自家用車		827	1,670	120	7,234
〃	1		JR在来線	990			90	6,469
御殿場市	1	1.0	自家用車		995	2,200	90	10,880
裾野市	2		JR在来線	1,170			120	8,326
小山町	1		JR在来線	1,520			120	9,026
富士宮市	2	2.0	自家用車		613	1,170	60	4,776
富士市	7		JR在来線	590			67	4,529
〃	7	2.0	自家用車		546	1,170	59	4,647
計	28							
平均(交通手段別往復費用を人数で加重平均)								6,059

(注)居住地の間に市町名の不記入の人は含まれていない

3. 静岡市を除く静岡県中部

	人数 (人)	同行 人数 (人)	交通手段	片道鉄道 費用 (円)	片道自動車費用		片道時間 (分)	往復費用 (円)
					燃料 (円)	有料道路 (円)		
焼津市	7	1.8	JR在来線	240	294		66	3,757
	6		自家用車				50	2,815
	1		路線バス	430			60	3,853
藤枝市	6	2.0	JR在来線	420	347		75	4,581
	9		自家用車				37	2,178
島田市	5	1.5	JR在来線	510	439		54	3,714
	2		自家用車				75	4,327
	1		路線バス	700			60	4,393
牧之原市	1	3.3	JR在来線	770	514		90	6,029
	4		自家用車				63	3,434
吉田町	1	2.0	自家用車		436	890	40	3,321
計	43							
平均（交通手段別往復費用を人数で加重平均）								3,461

4. 静岡県西部

	人数 (人)	同行 人数 (人)	交通手段	片道鉄道 費用 (円)	片道自動車費用		片道時間 (分)	往復費用 (円)
					燃料 (円)	有料道路 (円)		
菊川市	1	3.0	JR在来線	770	606	1330	60	4,533
	4		自家用車				48	3,660
掛川市	3	2.5	JR在来線	860	703		60	4,713
	2		自家用車				75	4,303
袋井市	4	2.8	自家用車		837	1800	68	5,284
磐田市	4	2.0	自家用車		898		98	5,762
浜松市	2	2.3	新幹線	2330	1,072	2220	75	8,401
	11		JR在来線	1340			106	7,987
	15		自家用車				86	7,116
計	46							
平均（交通手段別往復費用を人数で加重平均）								6,467

5. 東海地方

	人数 (人)	同行 人数 (人)	交通手段	片道鉄道 費用 (円)	片道自動車費用		片道時間 (分)	往復費用 (円)
					燃料 (円)	有料道路 (円)		
愛知県	9	2.1	新幹線	5,940	2,219	6,270	107	17,224
	7		JR在来線	3,410			189	16,226
	15		自家用車				138	14,855
三重県	3	2.0	新幹線	7,150	3,001	6,330	120	20,286
	2		自家用車				210	19,806
岐阜県	5	2.0	新幹線	6,270	2,714	5,490	168	20,920
	1		JR在来線	3,740			180	16,458
	3		自家用車				180	17,182
計	45							
平均（交通手段別往復費用を人数で加重平均）								16,989

6. 関東・東北地方

	人数 (人)	同行 人数 (人)	交通手段	片道鉄道 費用 (円)	片道自動車費用		片道時間 (分)	往復費用 (円)
					燃料 (円)	有料道路 (円)		
岩手県	1	1	JR在来線	10,670			720	57,254
宮城県	1	1	高速バス	10,300			750	58,010
福島県	1	2	新幹線	13,750			180	36,478
茨城県	2	3	新幹線	8,030			180	25,038
	1	6	JR在来線	5,500			360	28,957
	2	4	自家用車		3,482	8,740	225	17,334
栃木県	2	4	新幹線	10,210			180	29,398
	1	6	JR在来線	5,170			300	25,304
	1	2	自家用車		3,577	7,910	240	23,458
群馬県	1	2	新幹線	10,210			180	29,398
埼玉県	13	2.2	新幹線				172	8,556
	1	6	自家用車		2,371	6,190	240	14,825
千葉県	9	2.3	新幹線	6,270			157	20,355
	1	6	自家用車		2,605	6,800	210	13,610
東京都	19	2.3	新幹線	5,940			112	17,477
	4	2.8	JR在来線	3,410			195	16,547
	6	3.3	自家用車		2,084	6,190	155	12,701
	2	1.5	高速バス	3,410			195	16,547
神奈川県	8	1.9	新幹線	5,420			139	17,761
	3	3.3	JR在来線	2,640			250	17,750
	4	3.0	自家用車		1,951	6010	190	14,784
	2	2.0	高速バス	5,400			300	25,764
計	85							
平均（交通手段別往復費用を人数で加重平均）								18,104

7. 関西・中国・四国地方

	人数 (人)	同行 人数 (人)	交通手段	片道鉄道 費用 (円)	片道自動車費用		片道時間 (分)	往復費用 (円)
					燃料 (円)	有料道路 (円)		
滋賀県	1	2.5	新幹線	10,090			240	32,151
大阪府	4	2	新幹線	10,560			195	30,847
	2	1.5	高速バス	6,380			480	36,702
和歌山県	1	1	新幹線	11,750			240	35,471
兵庫県	3	2.7	新幹線	11,150			190	31,777
	2	2	高速バス	6,930			420	34,810
広島県	3	2	新幹線	16,270			240	44,511
愛媛県	2	2.5	新幹線	17,640			240	47,251
計	18							
平均（交通手段別往復費用を人数で加重平均）								36,522

8. 甲信越地方

	人数 (人)	同行 人数 (人)	交通手段	片道鉄道 費用 (円)	片道自動車費用		片道時間 (分)	往復費用 (円)
					燃料 (円)	有料道路 (円)		
新潟県	1	2	高速バス	8,610			180	26,198
山梨県	1	2.0	JR在来線	2,310			150	12,102
〃	4	2.5	自家用車			2080	90	6,153
長野県	6	2.3	自家用車			5460	160	12,661
石川県	3	2.3	新幹線	18,600			260	50,169
富山県	2	1.5	新幹線	17,820			240	47,611
計	17							
平均（交通手段別往復費用を人数で加重平均）								22,624

3. 参加者 7,980 人の旅行費用＋入場料の総額は 1 億 5,800 万円

参加者の TGC しずおか 2024 に対する価値観の算定には、次の 3 つの要素を求める必要があった。①旅行費用（往復交通費＋往復時間価値） ②入場料 ③消費者余剰

このうち、第一と第二の要素である旅行費用と入場料については、8地域別の1人あたり平均旅行費用＋入場料に、それぞれ地域別の人数を乗じることで得られる。入場料は一般チケット代 9,000 円と早期購入チケット代 8,500 円を単純平均した 8750 円として、各地の旅行費用に加えている。旅行費用と入場料をあわせた総額は 1 億 5,800 万円である（参考表 2）。

参考表 2 参加者の旅行費用と入場料の総額

居住地	来場者数 (人)	1人あたり 旅行費用 (円)	入場料 (円)	1人あたり 旅行費用＋ 入場料(円)	旅行費用＋ 入場料総額 (100万円)
記号・算式	A	B	C	D=B+C	E=D×A
静岡市	1,681	1,910	8,750	10,660	18
静岡県東部	698	6,059	8,750	14,809	10
静岡県中部	1,035	3,461	8,750	12,211	13
静岡県西部	1,107	6,467	8,750	15,217	17
東海地方	907	16,989	8,750	25,739	23
関東・東北地方	1,815	18,104	8,750	26,854	49
甲信越地方	359	22,624	8,750	31,374	11
関西・中国・四国地方	380	36,522	8,750	45,272	17
計	7,980				158

4. 参加者の消費者余剰の推計

私たちが、例えばビールを 300 円で購入するとき、私たちのビールに抱いている価値（価値観）は 300 円とは限らない。300 円という価格はビールを手に入れる費用であり、価値観と同じではない。400 円に価格が上がっても購入する人の価値（価値観）は少なくとも 400 円以上であるし、500 円に上がっても購入する人の価値は 500 円以上である。

価値（価値観）＝価格 300 円＋価格を上回る価値〇〇円

この価格を上回る価値は、経済学では「消費者余剰」と呼ばれる。自分の抱いている価値観より価格が低いとき、私たちはそれを「お買い得」と呼んでいるが、この「お買い得」部分にあたるのが、消費者余剰である。

ビールに対する価値観は人によってさまざまであるから、支払う費用である価格は 300 円で同じであるが、消費者余剰の大きさは異なる。

同じ理由で、参加者にとっての TGC しずおか 2024 に対する価値は、イベントを享受するための費用である旅行費用と入場料だけではなく、消費者余剰を加えた額である。

では、この消費者余剰の大きさを求めて金銭評価するためには、どうしたらよいか。それを知るためには、変わる価格ごとに、それを購入したいという人数が何人なのかを表す「需要曲線」を求めることができれば、可能となる（参考図 2）

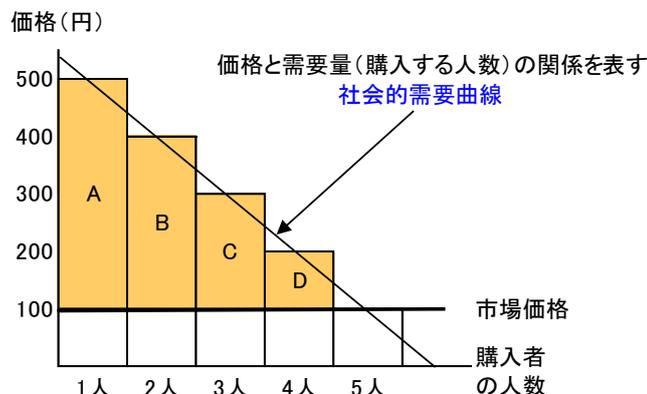
参考図 2 に例示したように、異なる価格に対して、それぞれ購入者数が分かれば（社会的需要曲線が分かれば）消費者余剰は計算で求めることができる。

参考図 3 は、縦軸に旅行費用＋入場料（購入者が支払う費用＝価格）を、横軸には参加者数をそれぞれの地域の人口で割った地域別訪問率（購入者の人数にあたる数値）で描いた TGC しずおか 2024 の社会的需要曲線である。

縦軸の各地の旅行費用は、前に掲げた（参考表 1）参加者の居住地別旅行費用の金額である。

図の中に 8 つのドットがあるが、これは 8 地域の旅行費用と訪問率であり、一番右のドットは静岡市を、それに接しているのが静岡市中心部（焼津市、藤枝市）などである。

参考図 2 消費者余剰の大きさは、社会的需要曲線でわかる

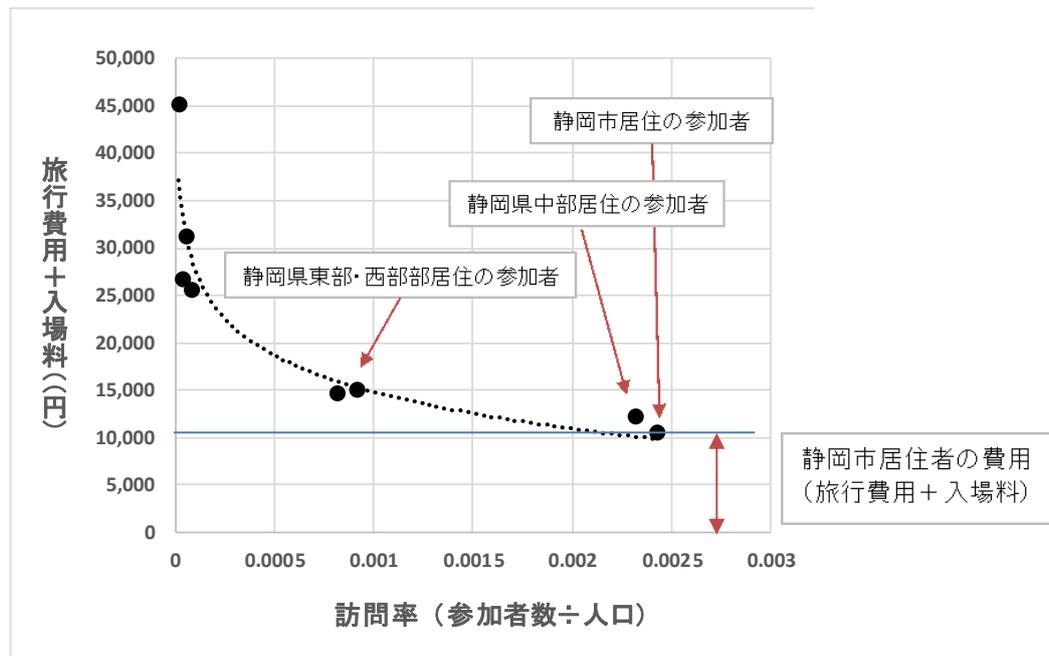


異なる価格に対して、購入する人の人数が分かれば
例えば、市場価格が100円のとときの消費者余剰は緑色で塗った部分が消費者余剰となり、購入者全体のその大きさは、

価値観500円の人 $500 - 100 = 400$ 円 (A)
 価値観400円の人 $400 - 100 = 300$ 円 (B)
 価値観300円の人 $300 - 100 = 200$ 円 (C)
 価値観200円の人 $200 - 100 = 100$ 円 (D)
 価値観100円の人 $100 - 100 = 0$ 円

■ 購入者全体の消費者余剰 = $400円 + 300円 + 200円 + 100円 = 1,000円$

参考図 3 TGCLしずおか2024の社会的需要曲線（旅行費用需要曲線）



参考図 3 に静岡市居住者のドットに横線を引いているが、これが静岡市居住者が負担する費用（ビールでいえば価格）であり、移動時間価値を含む旅行費用と入場料を合わせた額である（参考表 2；10,660 円）。

静岡市居住者の消費者余剰の総額は、社会的需要曲線の下からその横線（費用）の上までの斜辺が湾曲した直角三角形の面積である。再度、TGCしずおか 2024 参加者にとっての価値（価値観の金銭評価額）の公式を掲げておく。

$$\text{TGC しずおか 2024 の価値} = \text{参加するための費用（旅行費用＋入場料）} + \text{消費者余剰}$$

参考図 3 を用いて、全 8 地区の消費者余剰を求める計算方法が、参考表 3 である。

真ん中の追加チケット代が「0」の個所が、「費用」欄に含まれているチケット代 8,750 円の時の各地の参加数と合計 7,980 人である。

表は、それから仮に 1,000 円ずつチケット代を上げていった場合の各地の参加者の人数の推移を表している。消費者余剰は、例えば静岡市居住者の場合、追加 0 円の場合は、参考図の社会的需要曲線の関数(旅行費用需要関数)を求めた理論値としての来場者数 1,939 人であるが、入場料の追加が 1,000 円の場合は、1,378 人に減少する。このときの消費者余剰は、スライスした台形の面積

$$(1,939 \text{ 人} + 1,378 \text{ 人}) \times (1,000 \text{ 円} - 0 \text{ 円}) \div 2 = 168 \text{ 万 } 8,500 \text{ 円}$$

となり、入場料を順次 1,000 円ずつあげていながらこの作業を繰り返し計算する、旅行費用と入場料が 1,000 円から 2,000 円に上がった場合の消費者余剰は

$$(1,378 \text{ 人} + 1,007 \text{ 人}) \times (2,000 \text{ 円} - 1,000 \text{ 円}) \div 2 = 119 \text{ 万 } 2,500 \text{ 円}$$

つまり、参考図 3 の縦軸の旅行費用＋入場料に沿って、静岡市居住者の費用の横線から 1,000 円刻みで入場料を仮に追加した横に長く縦に薄い短冊形の面積を台形に近似させて消費者余剰の面積を求めている訳である。ニュートンが最初に考えた積分の方法である。

（参考文献：土居英二編『観光地づくりの政策評価と統計分析』日本評論社、2009 年）

参考表 3 消費者余剰の計算

→追加チケット代1,000円ごとの消費者余剰

居住地	人口 A (人)	参加者数 B(人)	訪問率 C=B/A	費用 (円)	0	1000	2000	3000	4000	5000
静岡市	693,389	1,681	0.00242	10,660	1,939	1,378	1,007	754	576	448
県東部	862,039	698	0.00081	14,809	689	537	425	341	277	228
県中部	446,327	1,035	0.00232	12,211	744	551	417	322	253	201
県西部	1,207,997	1,107	0.00092	15,217	871	683	544	439	358	295
東海地方	11,291,411	907	0.00008	25,739	1,099	951	826	722	634	559
関東・東北地方	48,999,123	1,815	0.00004	26,854	2,072	1,803	1,576	1,384	1,221	1,081
甲信越地方	7,226,597	359	0.00005	31,374	331	294	261	234	209	188
関西・中国・四国地方	20,773,424	380	0.00002	45,272	235	216	200	184	170	158
合計		7,980								
追加チケット代1,000円ごとの来場者予測人数 (人)					7,980	6,413	5,257	4,380	3,699	3,158
追加チケット代1,000円ごとの消費者余剰(100万円)					54.0	7.20	5.84	4.82	4.04	3.43

参考表 4 まとめ—TGC しずおか 2024 の来場者にとっての「価値」

居住地	来場者数 (人)	1人あたり 旅行費用 (円)	入場料 (円)	1人あたり 旅行費用+ 入場料(円)	旅行費用+ 入場料総額 (100万円)	消費者余 剰総額 (100万円)	TGCしずおか 2024の価値 (100万円)
記号・算式	A	B	C	D=B+C	E=D×A	F	G=E+F
静岡市	1,681	1,910	8,750	10,660	18	7	25
静岡県	2,839	5,272	8,750	42,238	40	11	51
静岡県東部	698	6,059	8,750	14,809	10	4	14
静岡県中部	1,035	3,461	8,750	12,211	13	3	16
静岡県西部	1,107	6,467	8,750	15,217	17	5	21
静岡県外	3,460	20,301	8,750	129,239	101	35	136
東海地方	907	16,989	8,750	25,739	23	10	33
関東・東北地方	1,815	18,104	8,750	26,854	49	19	68
甲信越地方	359	22,624	8,750	31,374	11	3	15
関西・中国・四国	380	36,522	8,750	45,272	17	3	21
計	7,980				158	54	212

(注)静岡県、静岡県外のそれぞれ居住地別の1人あたり旅行費用は、内訳地域の来場者数で加重平均して算出した。

消費者余剰の総額は、参考表 4 の右から 2 列目の計に記載したように、5,400 万円であった。参加者が参加するためにかけた費用（旅行費用+入場料）の総額は、1 億 5,800 万円であるので、参加者の価値観を金銭評価した総額は、表の右下に掲げたように 2 億 1,200 万円と推計される。

チケット代は一般 9,000 円及び早期割引 8,500 円であったので、来場者数 7,980 人をチケット代に乗じると、参加者が支払った入場料は、総額で 7 千万円ほどになるが、遠方から何時間もかけて来場した参加者を含め、その期待の大きさを意味する 2 億 1,200 万円という数字は、入場料総額の約 3 倍にのぼっていたと推定される。

(報告書 了)